

議事次第

日時：令和3年2月10日（水）14:00～16:00

場所：オンライン（Webex）

貸会議室アクティ奈良6階会議室

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 令和3年度西大台利用調整地区の運用計画
- 3 報告事項
 - (1) 大台ヶ原の利用に関する調査結果
 - (2) 大台ヶ原登録ガイド制度
 - (3) 構成機関における取組事例
- 4 その他
- 5 閉会

○ 配布資料

議事次第

構成員名簿

資料1：令和3年度西大台利用調整地区の運用計画（案）

資料2-1：令和2年度大台ヶ原の利用動向

資料2-2：令和2年度西大台利用調整地区意見聴取結果

資料3-1：大台ヶ原登録ガイド制度の概要

資料3-2：大台ヶ原登録ガイド制度に関する取組事例

資料4-1：構成機関における取組事例一覧表

資料4-2：大台ヶ原・大杉谷における自然再生等の周知に関する取組

資料4-3：令和2年度大杉谷登山道の利用状況等について

資料4-4：大台ヶ原における適正利用の推進、自然再生の周知等に関する取組

参考資料1：西大台利用調整地区の利用に関する意見聴取用紙

参考資料2-1：大台ヶ原登録ガイド ガイド実績取りまとめ票の集計結果

参考資料2-2：大台ヶ原登録ガイド講習会 開催結果

参考資料3：国立公園コンテンツ集（吉野熊野国立公園部分 抜粋）

大台ヶ原の利用に関する協議会 構成員名簿

機 関	ご 所 属・氏 名	会場	オンライン
国土交通省近畿運輸局 奈良運輸支局	松尾 剛志 首席運輸企画専門官		○
林野庁近畿中国森林管理局	三重森林管理署		
奈良県知事公室	南部東部振興課 北村 達也 課長補佐	○	
奈良県水循環・森林・景観環境部	景観・自然環境課 田垣内 政信 主任技能員		○
	景観・自然環境課 森下 真衣 主事		○
奈良県県土マネジメント部	道路保全課 川元 康弘 係長		○
	吉野土木事務所 工務第二課 上田 大輔 係長	○	
	吉野土木事務所 用地管理課		
奈良県警察吉野警察署	地域課 藤澤 龍一 課長	○	
三重県農林水産部	みどり共生推進課 自然公園班 脇田 安記 主幹		○
上北山村	企画政策課 北岡 孝之 課長		○
川上村	地域振興課 玉井 孝明 主事		○
大台町	産業課 福岡 孝太 主事		○
	企画課 下村 洋介 主事		○
上北山村議会	金山 進英 経済委員長	○	
上北山村観光協会	—		
上北山村漁業協同組合	—		
上北山村区長会	—		
上北山村商工会	金岩 修平 経営指導員		○
上北山村山岳救助隊	—		
奈良県猟友会上北山支部	—		
財団法人グリーンパークかわかみ	—		
自然を返せ！関西市民連合	—		
奈良県勤労者山岳連盟	由良 行基周 自然保護委員		○
奈良県山岳連盟	野田 健司 自然保護委員	○	
近畿日本鉄道株式会社	運輸部 営業課 板倉 久幸		○

機 関	ご 所 属・氏 名	会場	オンライン
	運輸部 営業課 西口 雅洋 主査		○
一般社団法人 奈良県タクシー協会	—		
奈良交通株式会社	乗合事業部		
公益社団法人 日本山岳会関西支部	—		
特定非営利活動法人 森と人のネットワーク・奈良	—		
大台ヶ原パークボランティアの会	—		
吉野きたやま森林組合	山岸 元博 参事代理	○	
一般財団法人 心・湯治館	—		
ワーク21上北山	—		
大台・大峯植生談話会	横田 岳人		○
三重県山岳・スポーツライミング連盟	—		
一般社団法人 大阪府山岳連盟	佐伯 典昭 常務理事		○

<環境省近畿地方環境事務所>

機 関	ご 所 属・氏 名	会場	オンライン
近畿地方環境事務所	木住野 泰明 統括自然保護企画官		○
	国立公園課 玉谷 雄太 課長		○
	国立公園課 西 大輔 課長補佐		○
吉野熊野国立公園管理事務所	岩田 佐知代 国立公園利用企画官	○	
吉野管理官事務所	関 貴史 国立公園管理官	○	
	小川 遥 自然保護官補佐		○

<オブザーバー>

機 関	ご 所 属・氏 名	会場	オンライン
株式会社環境総合テクノス	環境部 自然環境グループ 樋口 高志 マネージャー		○
大台ヶ原ビジターセンター	福嶋 千草		○

<業務委託者>

機 関	所 属・氏 名	会場	オンライン
株式会社自然産業研究所	大前 和正 取締役	○	
	産学連携室 寺田 武徳 研究員	○	

令和3年度西大台利用調整地区の運用計画（案）

1 利用調整を行う期間

令和3年4月19日（月）から11月30日（火）まで

※当該期間は、県道大台ヶ原公園川上線（大台ヶ原ドライブウェイ）の開通期間であり、開通・閉鎖日は天候等により変更の可能性がある。

2 1日あたりの立入可能な人数の上限

- 1) 利用集中期の平日 : 50人
- 2) 利用集中期の土日祝日 : 100人
- 3) 利用集中期以外の平日 : 30人
- 4) 利用集中期以外の土日祝日 : 50人

※1団体（2人以上を団体とする）の利用申込みは、代表者を含め最大10人まで

3 利用集中期

過去の大台ヶ原の利用実態に基づき、以下の期間を利用集中期として設定する。

- 1) 春期：令和3年4月20日（火）から6月6日（日）まで
- 2) 夏期：令和3年8月1日（日）から8月15日（日）まで
- 3) 秋期：令和3年9月18日（土）から11月3日（水）まで

図1 令和3年度西大台利用調整地区利用調整カレンダー

令和3年度(2021年) 西大台利用調整地区 利用調整カレンダー																											
4月							5月							6月							7月						
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4				1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
5	6	7	8	9	10	11	8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14
12	13	14	15	16	17	18	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30			24	25	26	27	28	29	30	28	29	30					26	27	28	29	30	31	
							31																				
8月							9月							10月							11月						
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日
1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
2	3	4	5	6	7	8	6	7	8	9	10	11	12	4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14
9	10	11	12	13	14	15	13	14	15	16	17	18	19	11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21
16	17	18	19	20	21	22	20	21	22	23	24	25	26	18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28
23	24	25	26	27	28	29	27	28	29	30				25	26	27	28	29	30	31	29	30					
30	31																										
利用集中期																											
<ul style="list-style-type: none"> ・利用調整期間 4月19日～11月30日(延べ226日) ・利用集中期 4月20日～6月6日(48日)、8月1日～8月15日(15日)、9月18日～11月3日(47日) 																											
<ul style="list-style-type: none"> 参考(令和2年度) ・利用調整期間 4月18日～11月30日(延べ227日) ・利用集中期 4月18日～6月7日(51日)、8月1日～8月16日(16日)、9月19日～11月3日(46日) 																											

4 指定認定機関

上北山村商工会が指定認定機関として、立入認定事務を行う。

令和3年度の立入については、令和3年1月19日（火）から受付を開始。

5 事前レクチャー

実施者：近畿地方環境事務所（請負事業者含む）及び上北山村商工会

実施期間：令和3年4月19日（月）から11月30日（火）まで

実施場所：大台ヶ原ビジターセンターレクチャールーム

上北山村商工会

時間割：以下の時間割を予定

大台ヶ原ビジターセンター		
区分	利用集中期の平日・ 通常期のすべての日	利用集中期の土日祝日
①		7:30～8:00
②	8:30～9:00	8:30～9:00
③	9:30～10:00	9:30～10:00
④	10:30～11:00	10:30～11:00
⑤	11:00～11:30	11:00～11:30
⑥	11:30～12:00	11:30～12:00
⑦	16:00～16:30	16:00～16:30

上北山村商工会	
区分	利用集中期、通常期の平日
①	
②	8:30～9:00
③	9:30～10:00
④	10:30～11:00
⑤	11:30～12:00
⑥	16:00～16:30

<表1 事前レクチャー時間割>

6 巡視

実施期間：令和3年4月19日（月）から11月30日（火）まで毎日

実施者：環境省（管理官）及びアクティブレンジャーによる巡視の他、環境省の巡視業務を請け負った者が複数人数で実施

7 制度運用上の変更点

1 認定申請書等の受付方法の追加

「吉野熊野国立公園西大台利用調整地区における認定関係事務の実施に関する規程」の第10条(3)に電子データ等により上北山村商工会へ送付する方法を追加した。

2 認定申請書様式の変更

従来の認定申請書様式の記入項目を必要最小限の項目にしぼり込んだ。また、申請書様式の氏名欄、名簿欄について、署名・押印を求めない形式に変更した。これにより、申請手続きの簡略化を行い、申請書及び認定事務の負担軽減、円滑化を図った。

8 モニタリング

利用調整の効果について評価を行う際の基礎資料を得るため、以下の事項について必要に応じて調査(モニタリング調査)を実施し、調査結果は、大台ヶ原自然再生推進委員会において評価を行う。

- ・自然環境の状態に関する事項：植物調査等
- ・利用のあり方に関する事項：利用動向に関する調査等

9 普及啓発

西大台利用調整地区の制度について、引き続き関係機関への情報提供、ホームページの運用や広報資料の配布等による幅広い普及啓発を実施する。

＜表2 令和2年度に近畿地方環境事務所で実施した主な取組＞

取組	対象	内容
ポスター・チラシ	一般	同地区の魅力や制度概要について、広く一般に対して周知するもので関係機関に配布 また、外国人利用者用に英語版を作成した。
チラシ	立入認定者	コース、利用に当たっての注意事項等を事前に周知するもので、認定証と併せて送付
ガイド冊子	立入認定者	コース、自然解説、利用に当たっての注意事項等を記載したもので、レクチャー時に配布
ホームページ	一般	同地区の魅力や制度概要について、広く一般に対して周知
	立入認定者	立入を希望する者はHPからアクセスし、立ち入りを希望する日の予約をすることが可能
Facebook	一般	大台ヶ原の自然景観や動植物等の情報を発信することを通じ、大台ヶ原の利用を推進

10 自然ふれあいプログラムの提供等

エコツアーの実施等、関係機関等と連携したプログラムを検討する。

<表3 令和2年度に近畿地方環境事務所で実施した主な取組>

取組	対象	内容
ガイドウォーク	公共交通機 関利用者	新型コロナ感染拡大防止のため中止

11 運用結果の取りまとめ及び報告

利用調整期間終了後、各種モニタリング調査及び運用結果について整理・分析し、本協議会において報告・公表する。

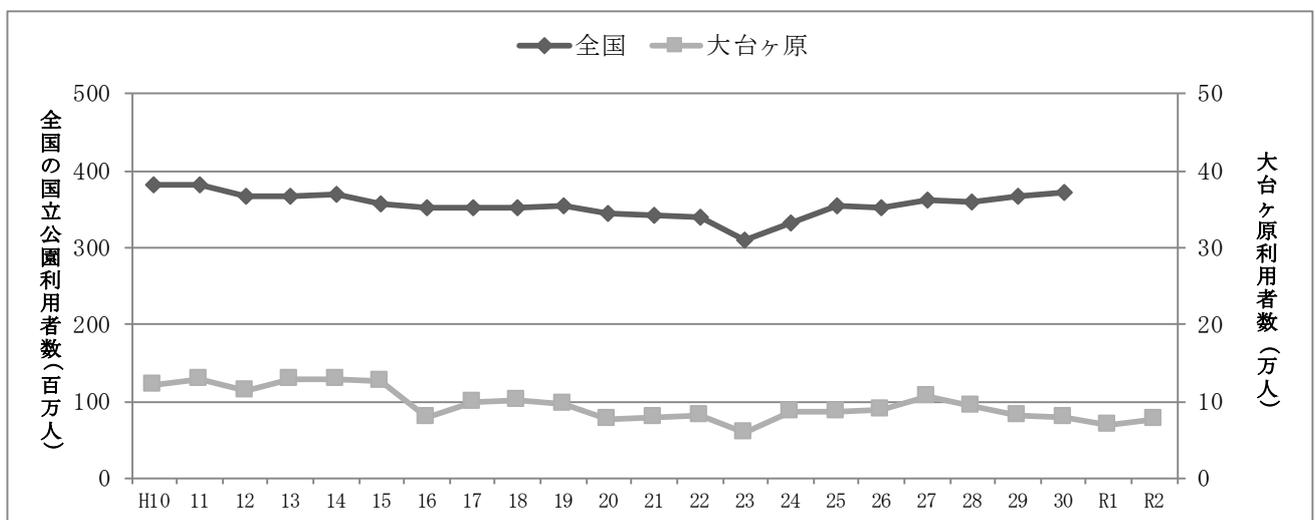
令和 2 年度大台ヶ原の利用動向

1. 大台ヶ原の利用動向

(1) 大台ヶ原の利用者数の推移

- 令和 2 年度の大台ヶ原の利用者数は 77,620 人となり、前年の 69,262 人と比べて 8,358 人 (12.1%) 増加した。
- 直近 22 年間の推移をみると、減少傾向で推移し平成 24 年度から微増に転じ、平成 27 年度から令和元年度にかけて再び減少傾向が続いていたが、令和 2 年度は増加傾向に転じている。

図表 1 「全国の国立公園と大台ヶ原の利用者数の推移」(平成 10 年度～令和 2 年度)



大台ヶ原の利用者数については山上駐車場の駐車台数のデータを用いた推計値である。利用者数の推計式は下記のとおりである。
(H5～H21の利用者数) 推計利用者数=観光バス台数×25人+乗用車台数×3人×3回転+二輪車台数×1.5人
(H22～R2の利用者数) 推計利用者数=観光バス台数×22人+乗用車台数×2.2人×2回転+二輪車台数×1.1人

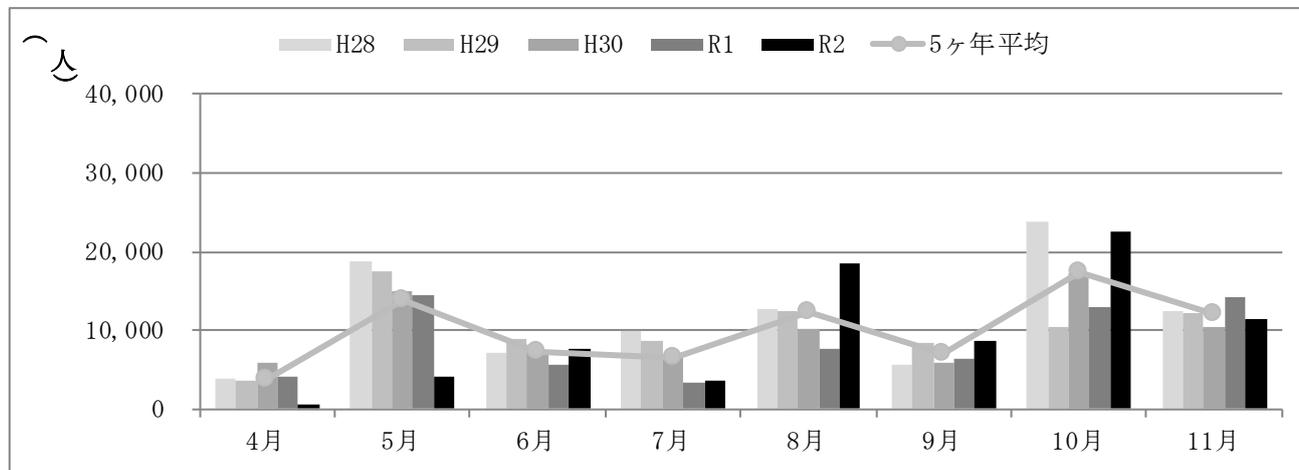
全国の国立公園の利用者数は、環境省発表の統計「自然公園等利用者数調査」に基づく。

(2) 大台ヶ原の月別利用者数

- 令和 2 年度の大台ヶ原の月別利用者数は、10 月 (22,590 人) が最多となり、次いで 8 月 (18,571 人) と 11 月 (11,545 人) が多かった。
- 過去 5 ヶ年平均をみると、利用者のピークは 5 月と 10 月であるが、今年度については 5 月よりも 8 月の利用者数の方が多かった。
- 令和 2 年度が 5 月の利用者が少なかったのは、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言が令和 2 年 4 月 7 日に東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡の 7 都府県に出されて後に全国へ拡大し、大台ヶ原の来訪者の多くが居住する大阪・京都・兵庫の 3 府県は同年 5 月 21 日まで解除されなかったこと、奈良県からも独自の「大都市との往来自粛要請」が発出されたこと等を受けて、4 月 17 日から 5 月 15 日まで大台ヶ原ビジターセンターの閉館及び西大台利用調整地区の閉鎖が実施されたことの影響を受けたものと考えられる。解除後、すぐに 6 月、7 月と前年同

月と比べて利用者が多くなっている。また、8月以降は政府のGO TOトラベルキャンペーン等の観光旅行業への振興策の影響を受け、例年以上に大幅に利用者が増えたものと考えられる。

図表2 「大台ヶ原の月別利用者数」の推移（平成28年度～令和2年度）



大台ヶ原の利用者数については山上駐車場の駐車台数のデータを用いた推計値である。利用者数の推計式は下記のとおりである。
 (H22～R2の利用者数) 推計利用者数=観光バス台数×22人+乗用車台数×2.2人×2回転+二輪車台数×1.1人

月別の利用者数は山上駐車場の駐車台数の日次データ（大台ヶ原ビジターセンター記録）を用いた推計値である。利用者数の推計値は前注記のとおりである。

(3) 西大台利用調整地区の認定者数及び入山者数

- 令和2年度の認定者数は2,911人で、前年度と比較して86人(3.0%)増加した。
- また入山者数は2,550人で、前年度より96人(3.9%)増加した。
- 奈良県から「大都市との往来自粛要請」が発出されたことを受けて、4月17日から5月15日まで大台ヶ原ビジターセンターの閉館及び西大台利用調整地区の閉鎖が実施されたこともあり、4月、5月の利用者は大幅に減少した。
- 認定者数、入山者数ともに、平成28年度にピークを迎えた後、近年は減少傾向にある。認定者数に対する入山者数の割合は経年的にばらつきがある。令和2年度は新型コロナウイルス感染症による影響を受けて大台ヶ原の月別利用者数と同様の推移を見せている。

図表3 「西大台利用調整地区の認定者数・入山者数」の推移（平成23年度～令和2年度）

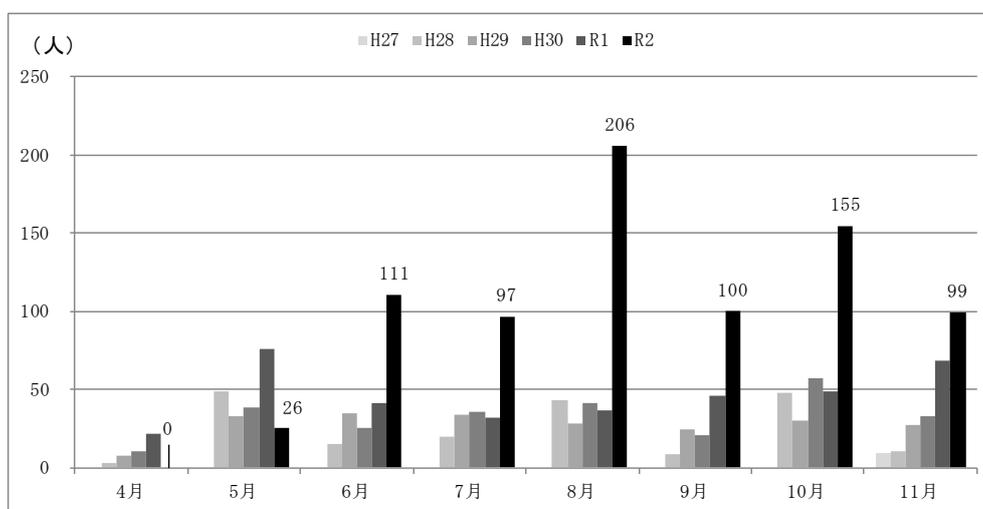
月	認定者数(人)										入山者数(人)									
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
4	52	41	60	109	74	125	193	164	240	62	41	41	58	96	72	120	182	157	181	0
5	541	510	636	756	934	696	714	580	532	164	437	472	591	699	851	639	687	533	500	60
6	269	292	251	309	236	309	273	203	240	215	187	277	230	278	216	288	261	169	227	206
7	181	197	262	270	289	402	277	190	187	255	139	181	250	230	230	363	268	158	161	210
8	277	299	370	367	320	417	328	273	211	472	268	246	340	300	303	400	310	227	180	450
9	159	266	294	262	395	280	246	212	207	344	64	242	199	234	368	216	223	169	172	307
10	526	889	915	871	870	975	886	807	771	930	425	841	714	711	834	903	632	771	621	875
11	153	488	366	286	377	337	384	324	437	469	133	439	315	237	343	314	358	305	412	442
合計	2,158	2,982	3,154	3,230	3,495	3,541	3,301	2,753	2,825	2,911	1,694	2,739	2,697	2,785	3,217	3,243	2,921	2,489	2,454	2,550
認定者に対する割合(%)											78.5	91.9	85.5	86.2	92.0	91.6	88.5	90.4	86.9	87.6

認定者は西大台利用調整地区への立入認定を受けた人数、入山者は立入認定受けたのち実際に入山した人数を示す。

(4) 西大台利用調整地区の当日認定者数

- 令和2年度は西大台利用調整地区認定関係事務実施に関する規程が改訂され、これまで設定されていた当日認定の最大10人という上限を廃止し、一日の利用者数の上限から事前申請者数を差し引いた人数を受付できるようにしたことで、年間で794人と前年の372人と比較して2倍以上に増加している。また、月別では8月(206人)が最多となり、次いで10月(155人)が多かった。
- 過去5ヶ年をみると、当日認定の制度が開始されて以降、制度の利用者は増加傾向にある。

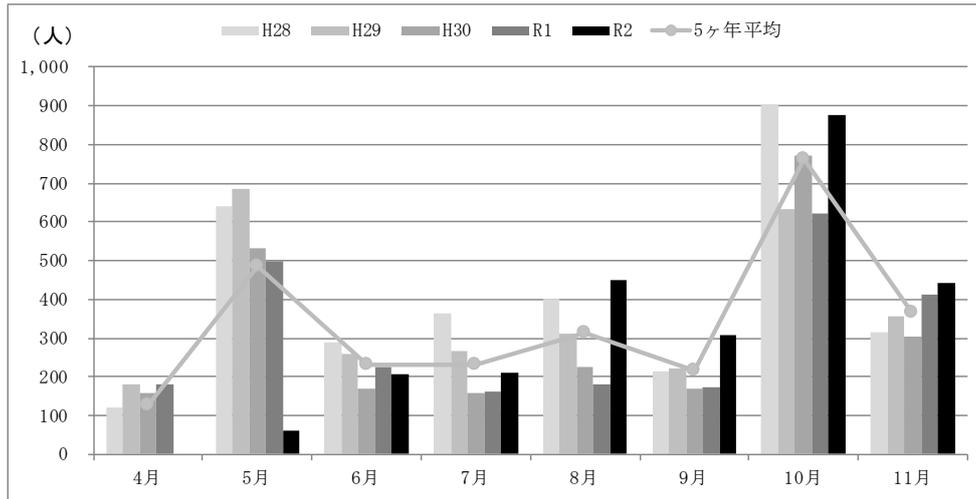
図表4 「西大台利用調整地区当日認定者数」の推移(平成27年11月～令和2年度)



(5) 西大台利用調整地区の月別入山者数

- 令和2年度の月別入山者数は10月(875人)が最多となり、次いで8月(450人)が多かった。
- 5ヶ年の推移をみると、5月と10月がピークとなっているが、その人数は年々減少傾向にある。
- 令和2年度は過年度と比較して、新型コロナウイルス感染症の影響で外出が制限されていた4月と5月の入山者数が少なかった一方、8月～11月にかけては多い入山者数となった。

図表5 「西大台利用調整地区月別入山数」の推移(平成28年度～令和2年度)

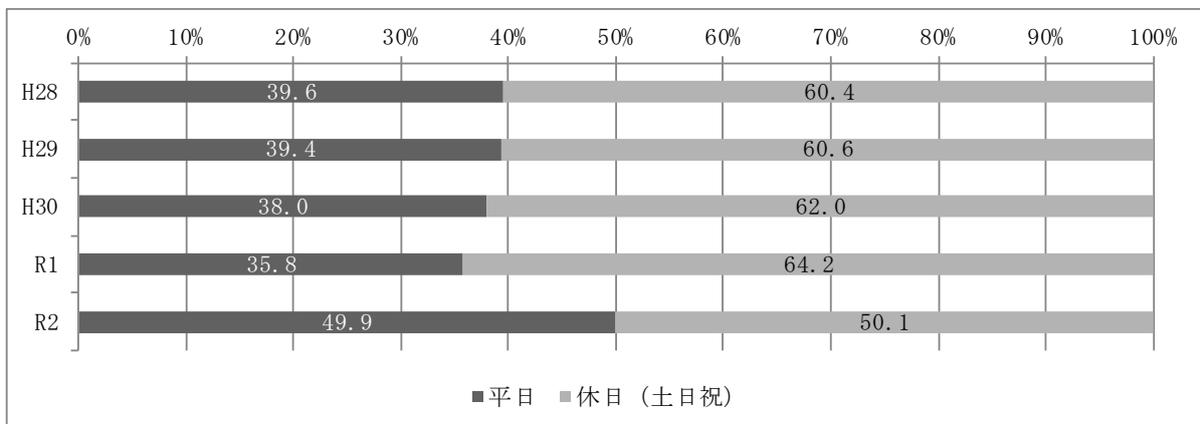


2. 大台ヶ原の利用状況

(1) 大台ヶ原の平日・休日別利用者割合

- 令和2年度の平日・休日別利用者割合は、平日が49.9%、休日が50.1%であった。
- 5年間の変化を見ると、平日利用者割合が減少し、休日の利用者割合が増加の傾向にあったが、令和2年度は休日の割合が減少した。理由としては、新型コロナウイルス感染症の影響から4月と5月に閉鎖期間があったため大型連休の来訪者が減少したことが一因として考えられる。

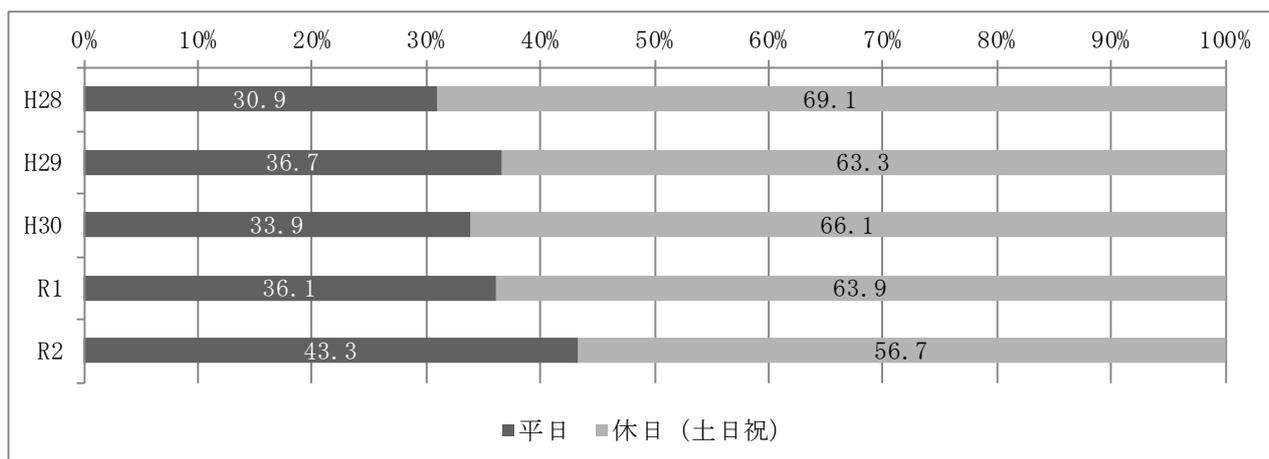
図表6 「大台ヶ原の利用者数の平日・休日別割合」の推移(平成28年度～令和2年度)



(2) 西大台利用調整地区の平日・休日別入山数割合

- 令和2年度の平日・休日別利用者割合は、平日が43.3%、休日が56.7%であった。
- 令和2年度は前年度と比較して、大台ヶ原利用者数の平日利用者割合が増加した(図表5より)のと同様に、西大台利用調整地区においても同じ傾向を示した。

図表7 「西大台利用調整地区の入山者数の平日・休日別割合」の推移(平成28年度～令和2年度)



(3) 西大台利用調整地区の巡視及び無認定立入者への指導状況

- 令和2年度の巡視中における無認定立入者への指導状況は、4件であった。
- 制度の運用を開始以降、指導等の件数は減少傾向が続いており、過去2年は連続で0人であったが今年度は無認定立入者が4人確認されている。なお、うち2件、2名は西大台の閉鎖期間中であつた。

図表8 無認定立入者への指導の状況

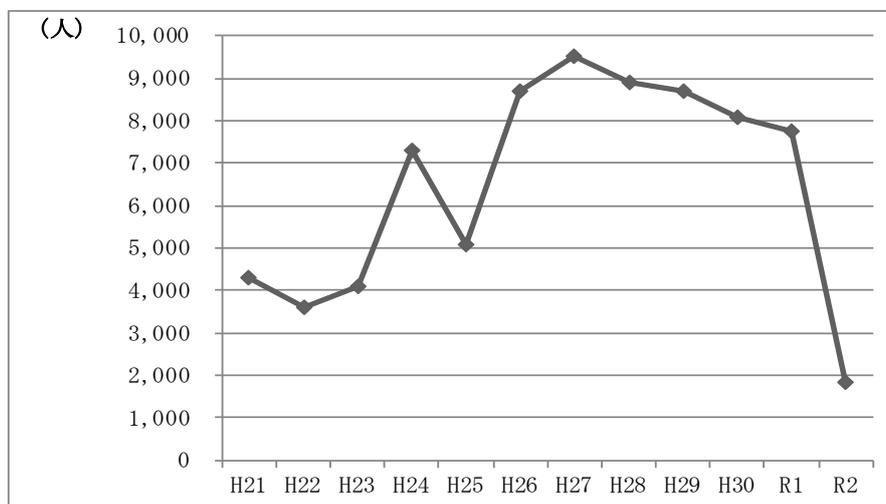
年度	区域内における 無認定立入者への指導	
	件数	人数
H20	19	32
H21	6	10
H22	8	16
H23	6	8
H24	6	8
H25	3	6
H26	2	2
H27	4	7
H28	1	1
H29	1	1
H30	0	0
R1	0	0
R2	4	4

(4) 公共交通の利用状況

- 令和2年度の路線バスの乗車実績（令和2年5月～11月）は延べ1,832名であった
- 平成27年度をピークに減少傾向が続いている。
- なお、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受け、5月7日（木）以降は土日祝日の

ダイヤを減便（通常2往復→1往復）して運行されたことなどから、過去12年間で最小の乗車人数となったと考えられる。

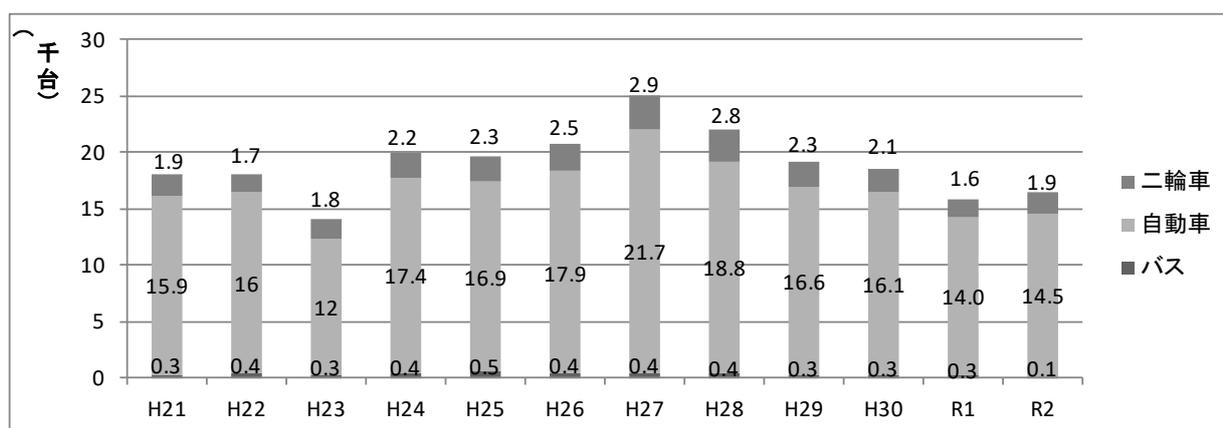
図表9 路線バス乗車人数の推移



(5) 山上駐車場台数の推移

- 令和2年度の山上駐車場の駐車台数は、総数が16,512台で、うちバスが121台、自動車が14,491台、二輪車が1,900台であった。
- 二輪車と自動車の駐車台数は、平成27年度をピークに年々減少していたが、令和2年度は増加に転じた。一方で、新型コロナウイルス感染症によるツアー旅行等の減少の影響から、バスの駐車台数は過去12年間で最も低くなった。以上から、団体での来訪が減少し、個人での来訪が増加した可能性が示唆される。

図表10 「正午における駐車台数」の推移（車種区分別、平成21年度～令和2年度）



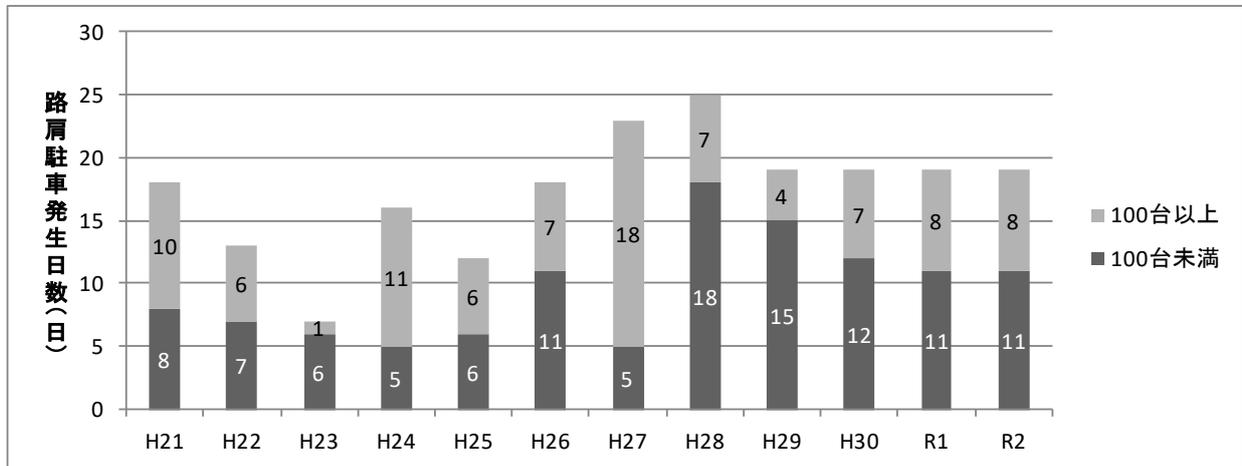
(6) 周辺の混雑状況

- 令和2年度の奈良県道40号大台ヶ原公園園川上線（以下「大台ヶ原ドライブウェイ」という。）において、路肩駐車が発生した日数は19日であった。このうち路肩駐車台数が100台以上発生した

日は8日、100台未満の日は11日であった。

- 路肩駐車の日数は、平成28年度から平成29年度にかけて減少し、それ以降変化が見られない。

図表11 「路肩駐車発生日数」の推移（平成21年度～令和2年度）

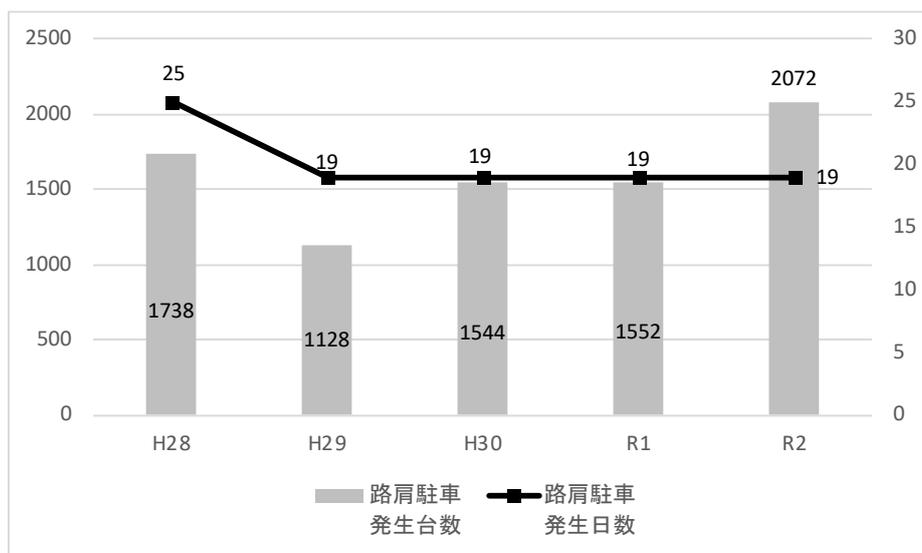


⁷大台ヶ原ビジターセンターにて記録されている、正午における自動車駐車台数を出典としている。

(7) 路肩駐車の日発生状況

- 平成28年度から令和2年度の大台ヶ原ドライブウェイでの路肩駐車の日発生状況を比較した。
- 路肩駐車の日数は、平成28年度から平成29年に減少し、それ以降変化は見られない。
- 路肩駐車の日発生台数は、平成28年度から平成29年度にかけて減少したが、平成30年度から再び増加した。

図表12 「路肩駐車の日発生台数と発生台数」の推移（平成28年度～令和2年度）



- また、過去5年間の路肩駐車が発生した日の天候を比較すると、降雨が観測されたのは平成28年

度では1日間、平成29年度は1日間、平成30年度は2日間、令和元年度と2年度は0日となり、路肩駐車を確認された日のほとんどが、土日や祝日かつ降雨が無い日に集中している傾向があることが示唆された。

- 前述の「大台ヶ原の平日・休日別利用者割合」からもわかるように、令和2年度は平日の利用者も増えている。路肩駐車が発生同じ傾向を示し、土日祝日だけではなく、一部平日にも発生しており、平成28年度から令和元年度と比べて、来訪者が山行の日を決定する要素として、曜日よりも天候をさらに重視するように変化した可能性も考えられる。

図表 12 「路肩駐車の日付の天候と発生台数」の一覧（平成 28 年度～令和 2 年度）

平成28年度

日付	曜日	天候	路肩駐車台数
4月30日	土	晴れ	102
5月1日	日	晴れ	156
5月4日	水	晴れ	6
5月5日	木	晴れ	70
5月14日	土	曇時々晴れ	10
5月15日	日	曇一時晴れ	22
5月21日	土	晴れ	68
5月22日	日	晴れ	71
8月11日	木	晴れ	23
8月13日	土	晴れのち曇	23
8月14日	日	曇り時々晴れ	11
10月10日	月	晴	190
10月15日	土	晴れ	137
10月20日	木	曇のち晴れ	10
10月22日	土	曇のち雨	80
10月23日	日	曇	120
10月27日	木	晴れ	11
10月29日	土	曇	46
10月30日	日	晴れ	345
10月31日	月	晴れのち曇	8
11月3日	木	晴れ	105
11月5日	土	晴れ	73
11月6日	日	曇時々晴	35
11月12日	土	晴れ	10
11月13日	日	晴れのち曇	6

平成29年度

日付	曜日	天候	路肩駐車台数
4月30日	日	晴れ	8
5月3日	水	曇一時晴	106
5月4日	木	雨	65
5月5日	金	晴のち曇	43
5月14日	日	晴のち曇り	55
5月20日	土	晴れ	6
5月27日	土	晴れ	17
5月28日	日	晴れ	55
6月4日	日	晴	35
7月16日	日	晴	57
8月12日	土	晴	38
8月13日	日	晴のち曇	39
8月14日	月	曇一時晴	6
9月3日	日	曇一時晴	3
9月30日	土	曇のち晴	18
10月8日	日	晴時々曇	156
11月3日	金	晴	160
11月4日	土	曇時々晴	96
11月5日	日	晴	165

平成30年度

日付	曜日	天候	路肩駐車台数
4月29日	日	晴	158
4月30日	月	曇一時晴	51
5月4日	金	曇のち晴	137
5月5日	土	晴	214
5月20日	日	晴のち曇	10
6月2日	土	晴のち曇	35
6月3日	日	晴	27
7月15日	日	晴時々曇	71
8月14日	火	晴	22
9月23日	日	晴	115
10月8日	月	晴	41
10月14日	日	雨のち曇	2
10月20日	土	曇一時小雨	66
10月21日	日	晴	168
10月28日	日	晴	167
11月3日	土	晴一時曇	173
11月4日	日	雨のち晴	61
11月11日	日	晴	6
11月23日	金	晴のち曇	20

令和元年度

日付	曜日	天候	路肩駐車台数
4月28日	日	晴のち曇	84
5月2日	木	曇のち晴	94
5月3日	金	晴のち曇	160
5月4日	土	晴のち曇	134
5月5日	日	晴時々曇り	10
5月25日	土	晴	21
5月26日	日	晴	19
8月11日	日	晴のち曇	54
9月15日	日	晴	110
9月16日	月	晴のち曇	1
10月6日	日	曇のち晴	20
10月20日	日	晴時々曇	135
10月26日	土	曇のち晴	18
10月27日	日	晴	129
10月28日	月	晴	25
11月2日	土	晴	199
11月3日	日	晴のち曇	236
11月4日	月	曇のち晴	100
11月9日	土	晴	3

令和2年度

日付	曜日	天候	路肩駐車台数
4月25日	土	晴	7
6月7日	日	晴	38
8月9日	日	晴	121
8月10日	月	晴	37
8月12日	水	晴のち曇	13
8月13日	木	曇時々晴	12
8月14日	金	晴時々曇	111
8月15日	土	晴	97
8月16日	日	晴	6
8月30日	日	晴時々曇	20
9月21日	月	晴一時曇	380
10月18日	日	曇のち晴	206
10月20日	火	晴	73
10月24日	土	曇のち晴	231
10月25日	日	晴	276
10月26日	月	晴	64
10月27日	火	晴	34
10月31日	土	晴	208
11月1日	日	晴のち曇	138

※黄色マーカー部分は何らかの降雨が観測された日を示す。また、曜日の色が赤色で表示しているのは土日、又は祝日を示している。

令和 2 年度西大台利用調整地区の利用者を対象とした意見聴取の実施

(1) 調査概要

- ・ 「西大台利用調整地区(以下「西大台」という。)」の事前レクチャー受講者を対象に意見聴取（アンケート）を実施し、利用者の属性や利用実態、利用後の満足度、事前レクチャーに対する評価等を把握した。
- ・ 意見聴取の実施方法、及び意見聴取票における主な質問項目は以下に示すとおりである。

意見聴取の方法

<p>■ 調査名</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 西大台利用調整地区の利用に関する意見聴取
<p>■ 対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「西大台利用調整地区」の事前レクチャー受講者
<p>■ 配布期間</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 2 年 5 月 16 日～ 令和 2 年 11 月 30 日
<p>■ 調査票の配布・回収</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大台ヶ原ビジターセンターで、事前レクチャー受講者に対して、意見聴取用紙と返信用封筒を配布した。意見聴取用紙の回収方法は、現地回収（大台ヶ原ビジターセンター）と郵送回収の 2 種類である。

主な質問事項

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用者情報 ・ 団体ツアー・個人（団体ツアー以外）の別 ・ 行程(宿泊の有無) ・ 来訪回数 ・ 入山前に大台ヶ原ビジターセンターで受けたレクチャーについて ・ ガイド利用について |
|---|

単一選択の質問は[SA], 複数選択の質問は[MA], 記述式(自由回答)の質問は[FA]と表示

注：構成割合グラフについては、内訳と合計が一致しない場合がある。

図表 1 平成 20～令和 2 年度のアンケート用紙配布数及び回収率

年度	配布数	回収数	回収率
H20	1,025	445	43.4%
H21	1,020	145	14.2%
H22	1,501	448	29.8%
H23	1,604	420	26.2%
H24	1,930	659	34.1%
H25	2,615	545	20.8%
H26	943	643	68.2%
H27	2,576	916	35.6%
H28	2,381	1,435	60.3%
H29	2,739	2,031	74.2%
H30	870	724	83.2%
R1	-	222	-
R2	1,576	1,405	89.1%

R1 年度については、配布数が確認できないため、回収率の算出は行っていない。

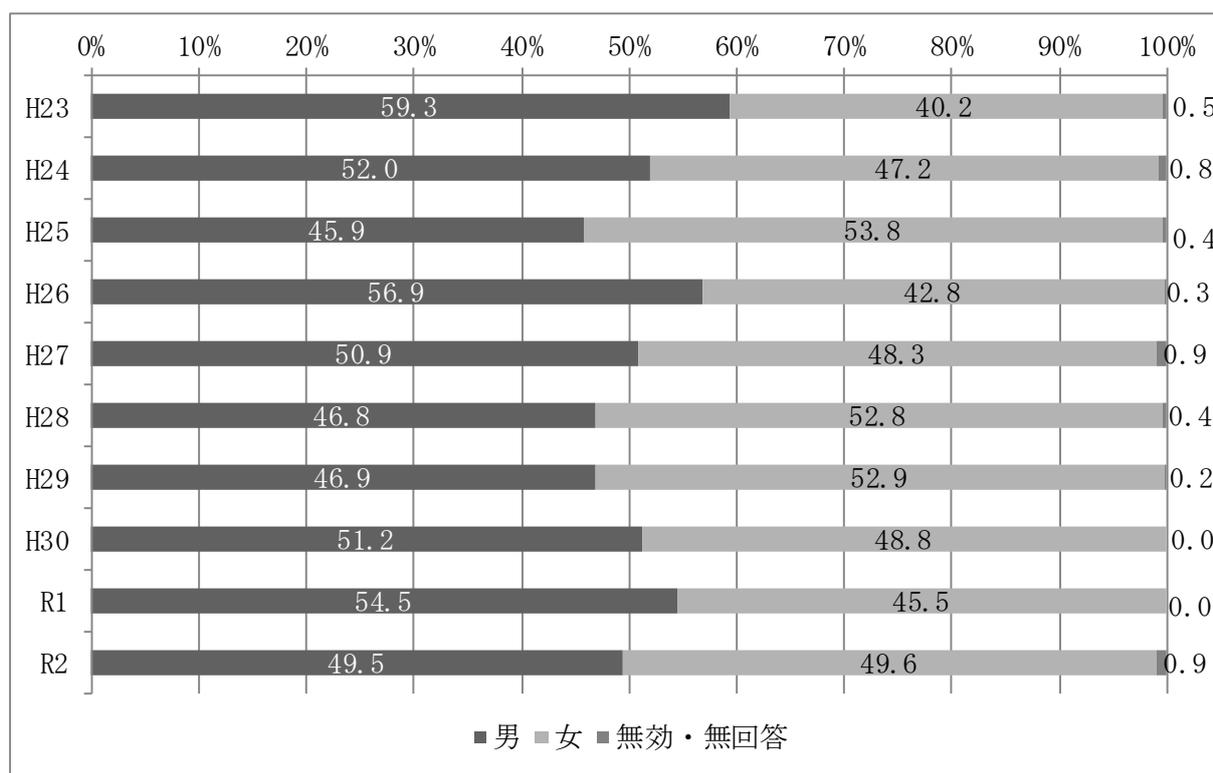
(2) 基本事項

1) 回答者の属性[SA]

ア 性別

- 令和2年度の利用者の性別割合は、男性が49.5%、女性が49.6%であった。
- 前年度に比べ、男性は5%減少、女性は4.1%増加した。
- 10年間の推移を見ると、平成29年度からは男性の利用者割合が増加傾向にあるが、令和2年度は男女比がほぼ同数となった。

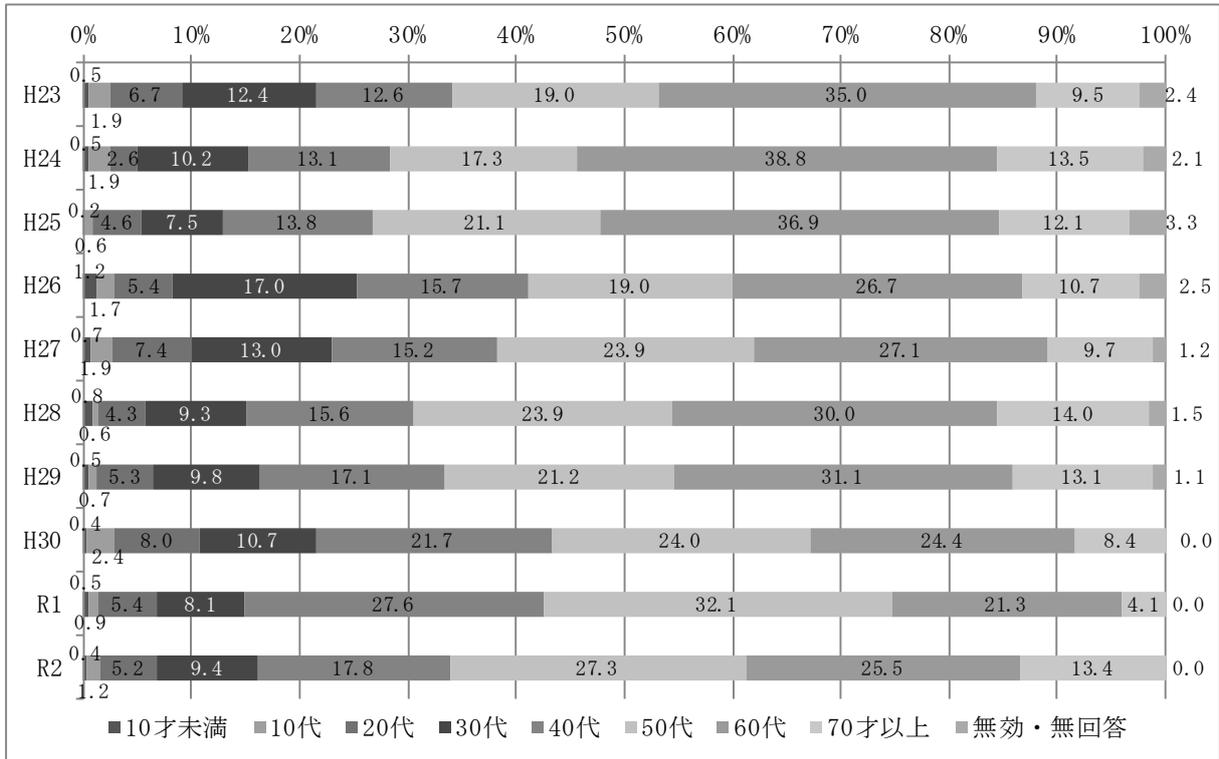
図表2 「利用者の性別割合」の推移（平成23年度～令和2年度）



イ 年齢

- 令和2年度の利用者の年齢層は、50代(27.3%)が最も多く、次いで60代(25.5%)であった。
- 平成23年度からの経年変化を見ると60代の減少と40代、50代の増加が顕著である。

図表3 「利用者の年齢」の推移（平成23年度～令和2年度）



ウ 居住地

- 令和2年度の利用者の居住地割合について、都道府県別にみると大阪（35.1%）が最多で、次いで奈良（16.0%）、兵庫（11.5%）の順であった。
- 令和2年度は過年度と比べて、近隣県に居住する利用者の割合が増加した傾向が見られた。
- 表中にはないが、令和2年度はその他（海外など）の割合は0.1%、東京は2.0%、神奈川県は1.2%となり、新型コロナウイルス感染症の影響で遠方からの来訪を控えていることが考えられる。

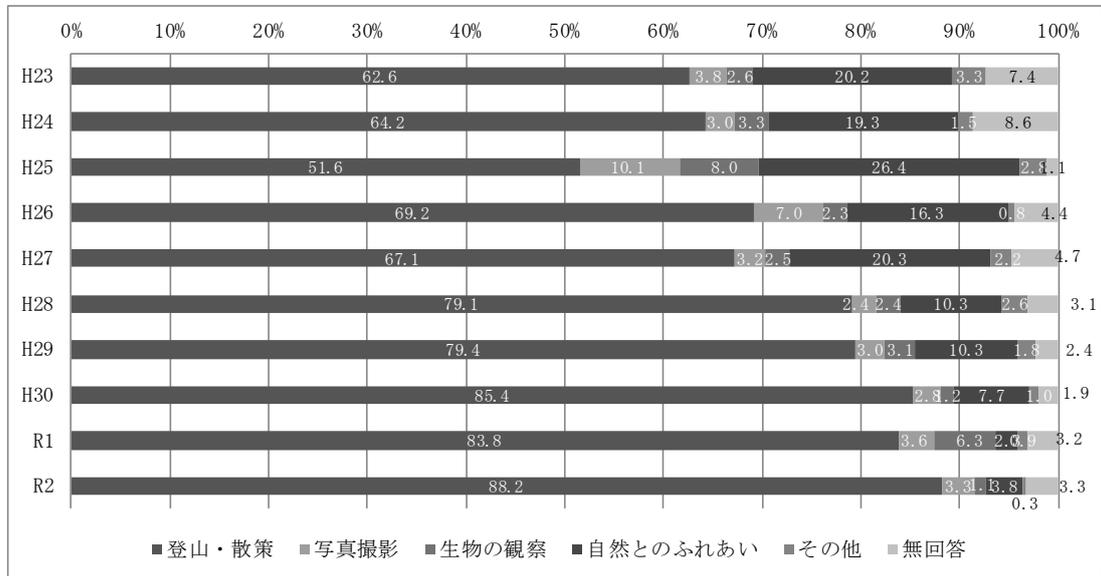
図表4 利用者の居住都道府県（上位8県）別割合

区分	（%）									
	H28		H29		H30		R1		R2	
1	大阪	42.9	大阪	32.3	大阪	30.3	大阪	25.1	大阪	35.1
2	兵庫	13.0	奈良	16.8	奈良	18.9	兵庫	11.0	奈良	16.0
3	奈良	12.7	兵庫	12.7	兵庫	12.2	奈良	10.0	兵庫	11.5
4	京都	8.2	京都	5.7	和歌山	7.1	愛知	8.2	京都	6.1
5	愛知	3.3	東京	4.7	京都	6.5	和歌山	7.3	和歌山	5.5
6	滋賀	2.9	愛知	3.9	愛知	5.4	東京	6.8	三重県	5.3
7	神奈川県	2.2	和歌山	2.7	東京	3.9	京都	6.8	愛知	5.0
8	東京	2.0	神奈川県	2.6	三重	2.6	滋賀	3.2	滋賀	2.9

エ 来訪目的

- 令和2年度の利用者の西大台への来訪目的は、「登山・散策」が88.2%で最も多かった。
- 10年間の推移を見ると、平成25年から「登山・散策」の割合が増加し、「自然とのふれあい」の割合が減少傾向にある。

図表5 「西大台への来訪目的」の推移（平成23年度～令和2年度）

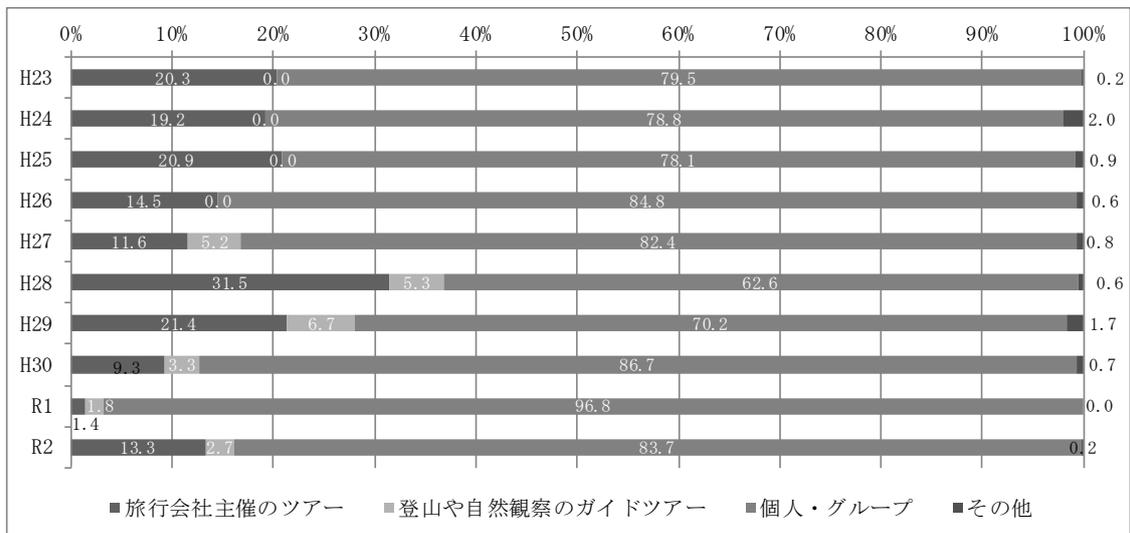


2) 団体ツアー・個人の別 [SA]

ア 団体ツアー・個人の別利用者割合

- 令和2年度の利用者の団体ツアー・個人の別については、「個人・グループ」が83.7%で最も多いが、前年度と比べて約13%減少した。
- 旅行会社主催のツアーは13.3%で、前年度に比べて約12%増加した。
- 10年間の変化を見ると、平成29年度から「個人・グループ」の割合が急激に増加していたが、令和2年度は再び増加に転じている。

図表6 「団体ツアー・個人別利用者割合」の推移（平成23年度～令和2年度）



イ 旅行会社主催のツアー

- 今年度実施した意見聴取で、旅行会社主催のツアーに参加したと回答したのは185名で、そのうち主催者名の回答があったのは2名のみだった。

ウ 登山や自然観察のガイドツアー

- 今年度実施した意見聴取で、登山や自然観察のガイドツアーに参加したと回答したのは38名で、主催者名の回答はなかった。

エ 個人・グループでの来訪の人数

- 個人またはグループで来訪した際の人数について聞いたところ、「2人」での来訪が37.7%と最も多かった。

図表7 個人又はグループでの来訪時の人数

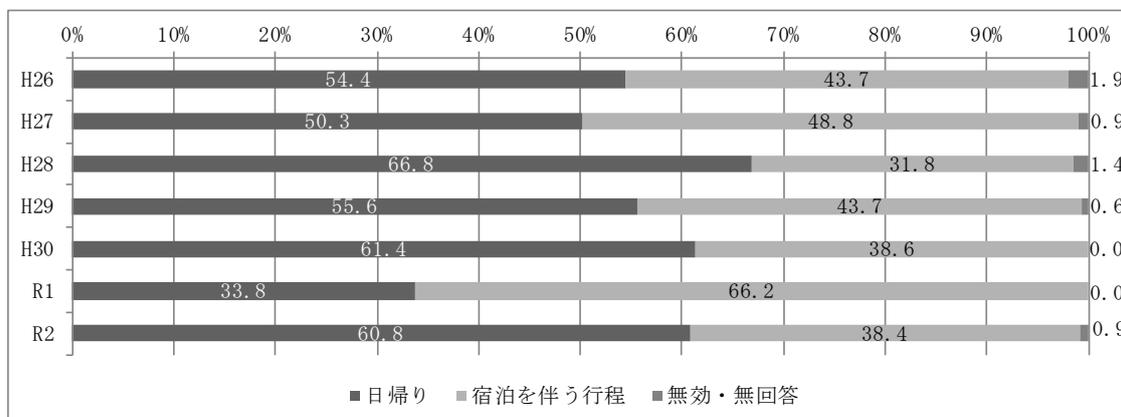
区分	個人・グループの人数	件	%
1	1人	138	11.9
2	2人	438	37.7
3	3人	143	12.3
4	4人	114	9.8
5	5人	73	6.3
6	6人	23	2.0
7	7人	20	1.7
8	8人	33	2.8
9	9人	19	1.6
10	10人	11	0.9
11	11人以上	11	0.9
12	無回答	139	12.0
	計	1162	100.0

3) 行程[SA・FA]

ア 来訪の行程

- 令和2年度の利用者の行程は、「日帰り」が60.8%、「宿泊を伴う行程」は38.4%であった。
- 前年度に比べると、「日帰り」が大きく増加し、平成30年度と同水準の割合となり、一方、「宿泊を伴う行程」が大きく減少した。

図表8 「大台ヶ原への行程」の推移（平成26年度～令和2年度）

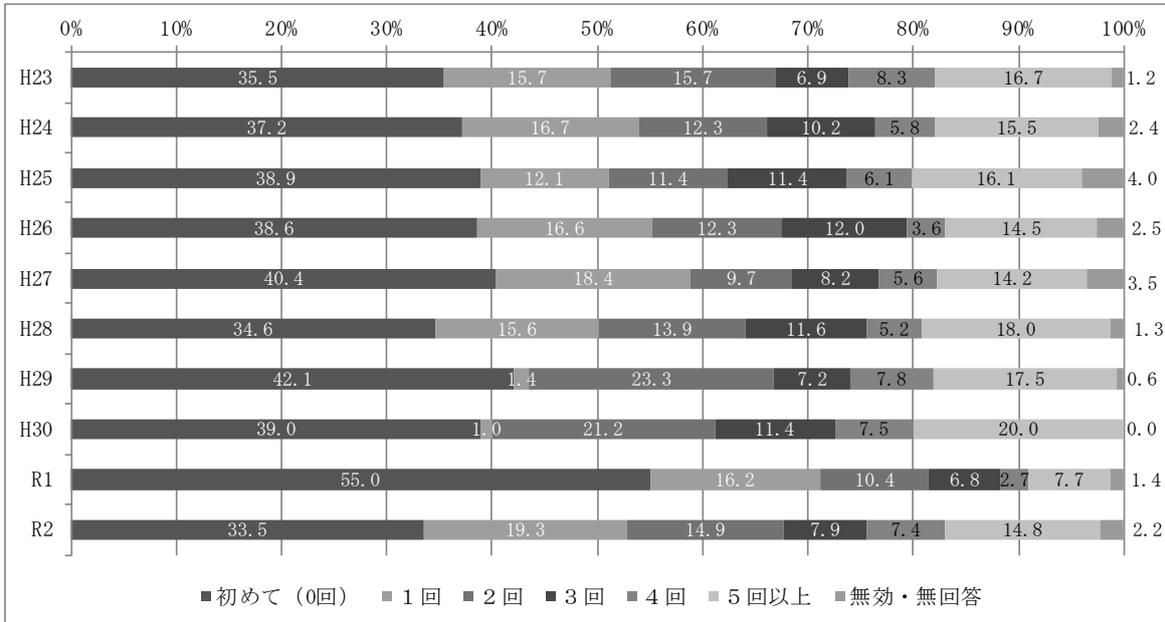


4) 来訪回数 [SA]

ア これまでに大台ヶ原に来た回数

- 令和2年度の利用者の大台ヶ原への来訪回数は、「初めて（0回）」（33.5%）が最も多かったが、前年と比較すると減少している。一方で、来訪経験者の割合は増加した。

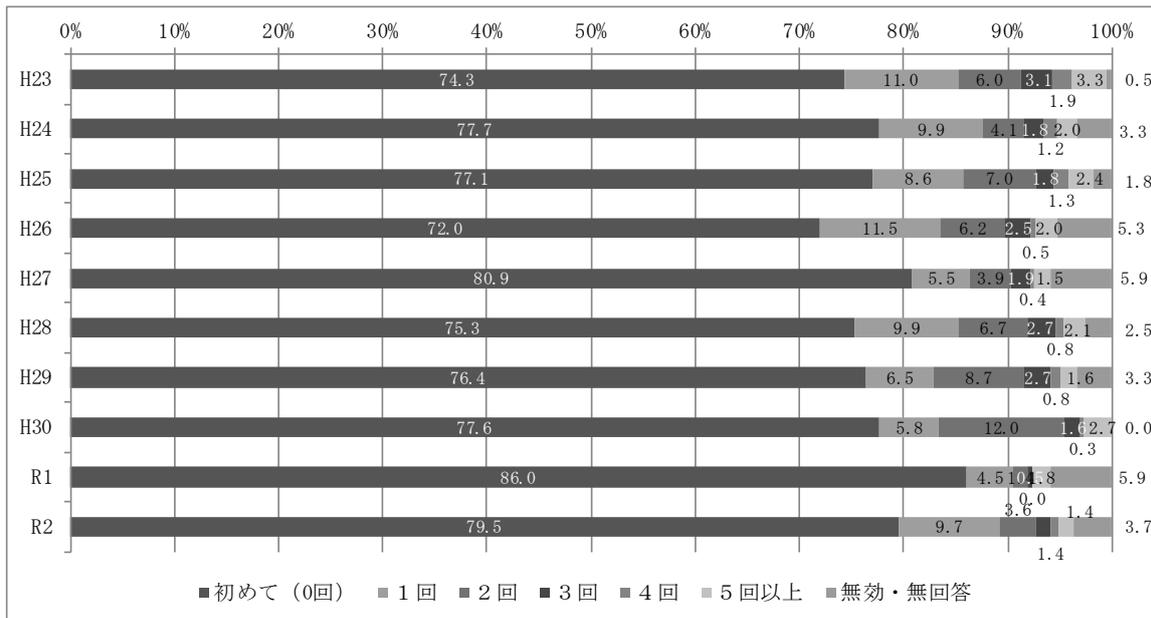
図表9 「大台ヶ原への来訪回数」の推移（平成23年度～令和2年度）



イ うち西大台に来た回数

- 令和2年度の利用者における西大台への来訪回数は、「初めて（0回）」（79.5%）が最も多かった。
- 前年度と比較して、「初めて」の割合が減少し、来訪経験者の割合が増加した。

図表10 「西大台への来訪回数」の推移（平成23年度～令和2年度）

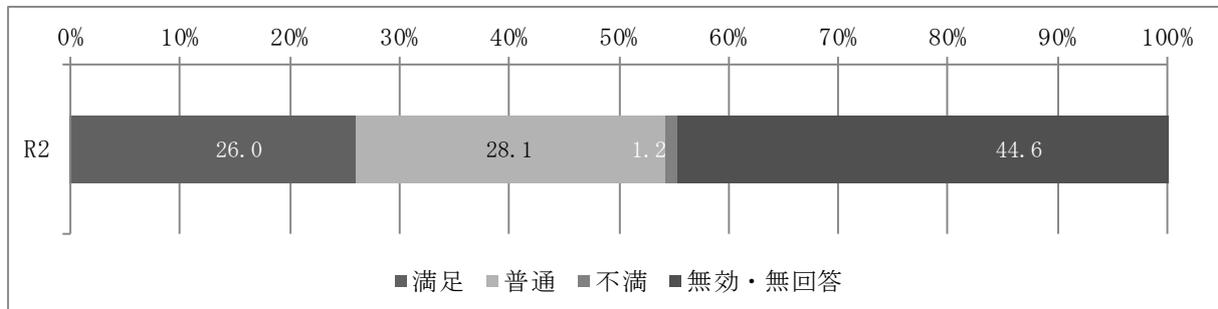


(3) ビジターセンターのレクチャーについて

1) 長さについて [SA]

- 令和2年における事前レクチャーの長さ(時間)と内容に対する意見は、「普通」(28.1%)が最も多かった。

図表 11 「事前レクチャーの時間の長さに対する評価」(令和2年度)



2) レクチャーの内容について不満の理由・改善すべき点 [FA]

- 令和2年度のレクチャー内容「普通」「不満」と答えた利用者のうち、不満な点あるいは改善すべき点については図表 12 に取りまとめた。
- 令和2年度からレクチャーがビデオ形式となったことに対する不満が目立っている。

図表 12 レクチャーの不満点についての自由記述(全意見)

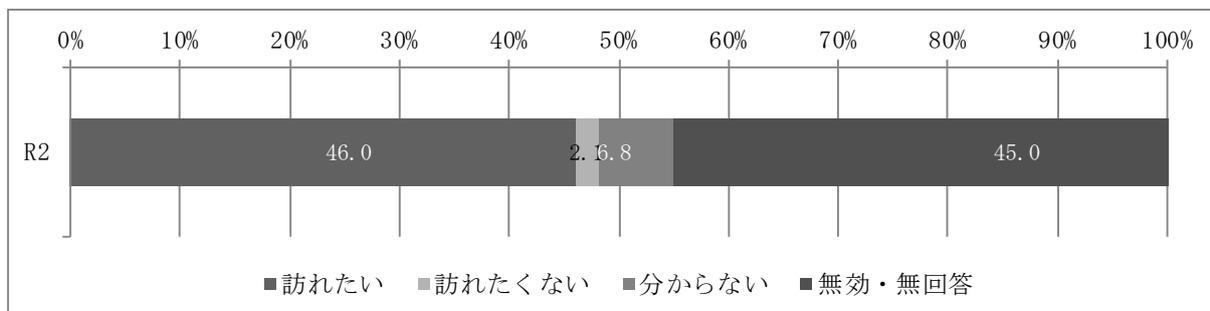
項目	自由記述
レクチャー／内容	もっと動植物の説明があってもよい
	不満というかレクチャー毎回受けることでスタートがおそくなるのだけが。
	6/25に受けました。ビデオだけでなくその日の注意点など話を聞けると良いなと思いました。
	もう少し長く案内していただきたい。
	咲いてる花や、過去のトラブルなど今後これがどのように生かされるか(例:水源として大切とか・・・)
	もう少し職員の方の話を聞きたかった。
	注意だけでなく時間を長くしても見所を紹介してほしい
	もう少し自然についてくわしい解説があると楽しい。ルールの説明中心、つまらない。
	植物の説明も欲しかったです。
	一般的過ぎてもっと専門的な話を期待していました。
	でも、もう少し動植物の紹介があればBEST
	ビデオだけでは印象に残らない
	ビデオを見た10分ほど、職員さんの話も聞きたかった。(見所等登山を楽しむ内容のお話し)
	映像だけでは軽く考える登山者もいるのでは?今回見たバーナー使用の人を見てそう思った。
	予備ではないが大台ヶ原の成り立ち、植生などの説明があるとよい
	レクチャーをビデオだけで済ませているところ。この場所の魅力が伝わらず通り一遍等になっている。
ツアー参加なのでVTRを流すならバス車内でも可能かと	
もう少し植生や何目的に開拓したのか知りたかった	
良いガイドブックは戴きましたがレクチャー(30分以内程度で)もう少し森の動植物についての話を聞いておきたかった。	
大台のなりたちとかをもう少し聞きたい気がしましたが、時間がながくなるのも困りますので。	
わざわざする程の内容ではない	
生物の種類をもう少し詳しく知りたかった	
レクチャー／段取り	受付、料金、身分証明提示は1ヶ所です!ひもの長さとか大きさは改善
	受付口をひとつにまとめるべきでは、と思った。身分証が必要な事を受付で教えてもらえると助かった。こちらの添乗員さんから到着前に電話で9人ずつの3グループでレクチャー受けますとお伝えしていたのに急に2グループで変更されさらに年配の女性の受付の方が「おたくら(?)本当段取り悪いわ」と文句を言われた。きいていてとても気分が悪くなった言葉に気がつけて欲しい。
その他	レストランがもう少し遅くあいてればよかった。
	天気にも恵まれ、自然観察もできとても良かったです。

(4) 西大台利用調整地区の利用について

1) 西大台利用調整地区への再訪の意思[SA]

- 令和2年度の利用者に、西大台利用調整地区を再度訪問したいか尋ねたところ、「訪れたい」が46.0%、「訪れたくない」は2.1%であった。

図表 13 「西大台利用調整地区への再訪の意思」(令和2年度)

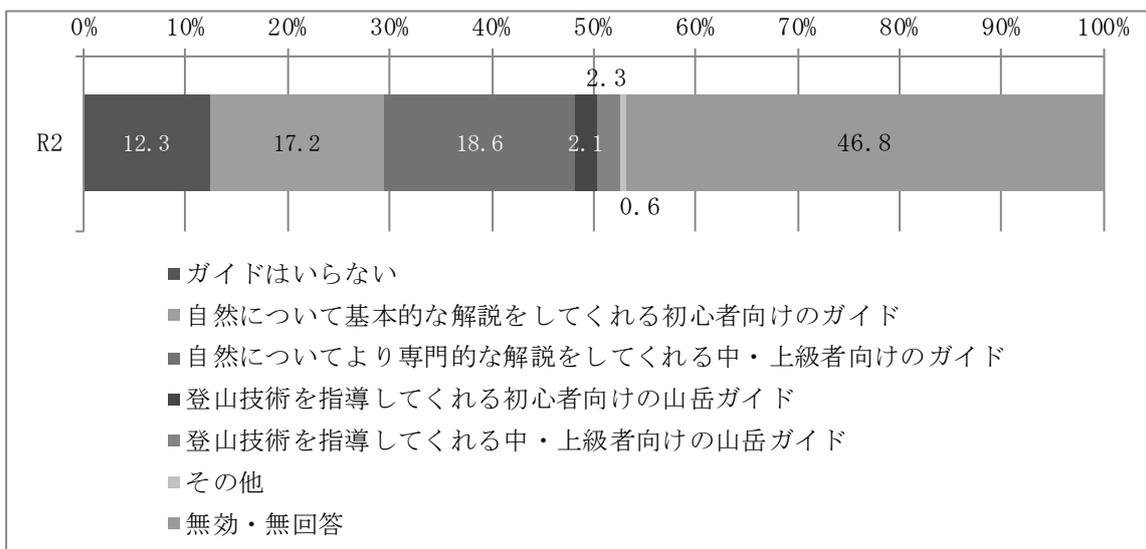


2) 西大台利用調整地区以外も含む大台ヶ原でのガイド利用について[SA]

ア 考え

- 令和2年度の利用者に、西大台利用調整地区を含む大台ヶ原でガイドを利用することについて尋ねたところ、「自然について基本的な解説をしてくれる初心者向けのガイド」が17.2%、「自然についてより専門的な解説をしてくれる中・上級者向けのガイド」は18.6%となり、自然に関する解説を求めるニーズがあることが示唆される。

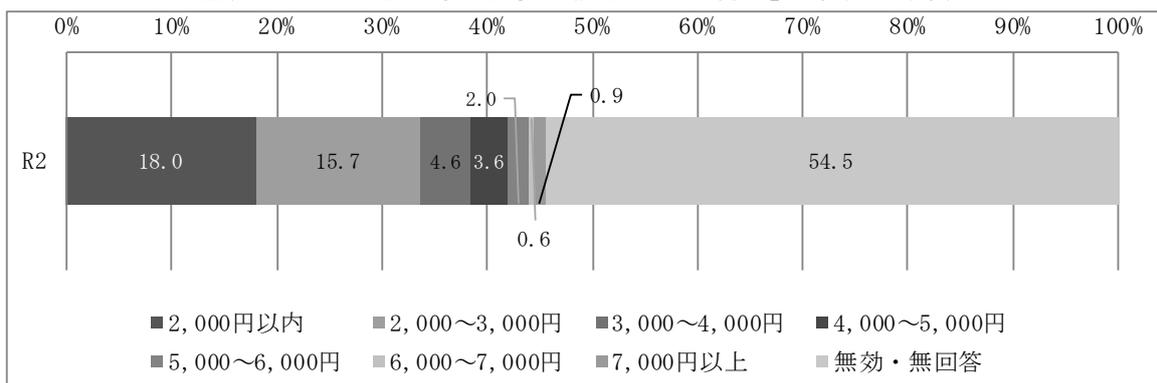
図表 14 「大台ヶ原で求めるガイドの種類」(令和2年度)



イ 支払可能なガイド料金[SA]

- 令和2年度の利用者において、大台ヶ原でガイドを利用する場合に支払うことが可能な金額（利用者一名あたり）について尋ねたところ、「2,000円以内」が18.0%、「2,000～3,000円」が15.7%であった。
- 金額の選択肢が異なるため、単純な比較は難しいが、過年度においても3,000円以内の回答が無効・無回答を除くと全体の8割程度を占めることから来訪者にとっての価格の中心（ボリュームゾーン）は3,000円以内になると考えられる。

図表 15 「大台ヶ原で支払可能なガイド料金」（令和2年度）



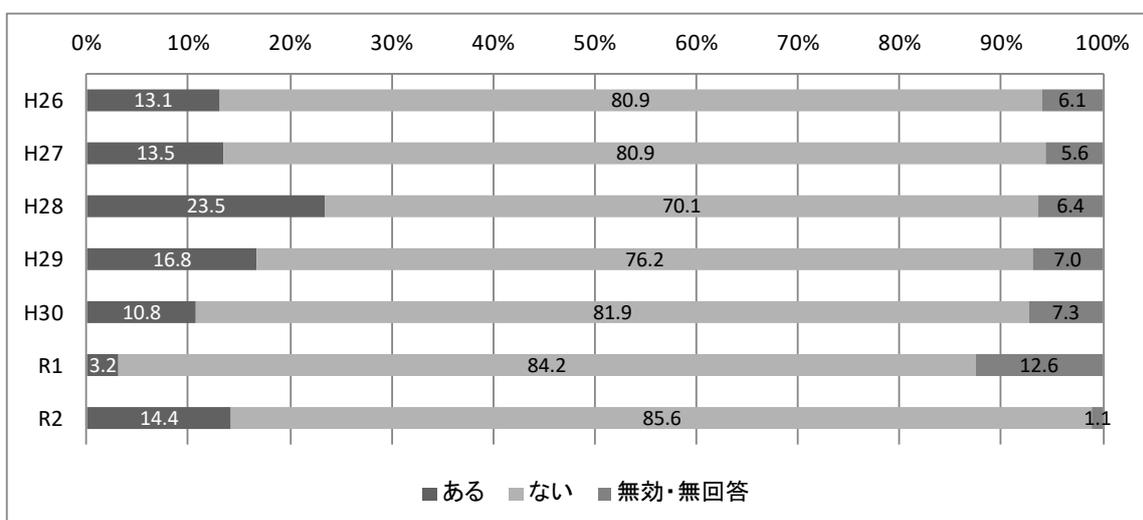
(5) ガイド利用について

1) ガイド利用の経験[SA]

ア ガイド利用の経験の有無

- 令和2年度の利用者において、今回も含めて、大台ヶ原でガイド付きの山歩きをした経緯について尋ねたところ、利用したことが「ある」が14.4%、「ない」が85.6%であった。
- 過去6年間の推移を見ると、平成28年をピークに「ある」の割合が年々減少していたが、今年度は増加に転じている。

図表 16 「ガイド付きの山歩き・登山の経験」の推移（平成26年度～令和2年度）



2) 登録ガイド利用の有無

- 令和2年度に、大台ヶ原でのガイド利用経験があると回答した利用者は200名であった。
- 大台ヶ原でのガイド利用経験のある方に、「大台ヶ原登録ガイド」を利用したかどうかを尋ねたところ、「利用した」が約49%と多く、「利用していない」は約25%であった。

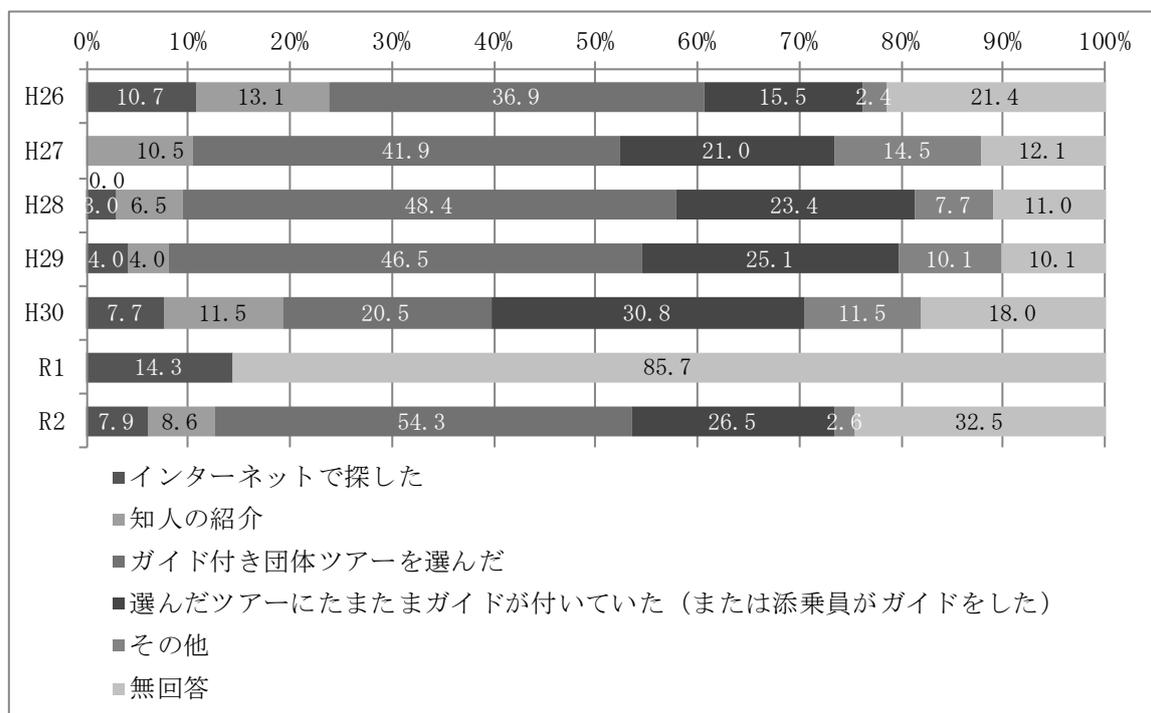
図表 17 大台ヶ原登録ガイドの利用の有無

区分	カテゴリー	人	%
1	利用した	98	49.0
2	利用していない	51	25.5
3	登録ガイドであったのかわからない	30	15.0
4	無効・無回答	21	10.5
	計	200	100.0

3) ガイドを選んだ経緯

- 令和2年度の利用者のうち、大台ヶ原でガイドを利用したと回答した者が、そのガイドを選んだ経緯については、「ガイド付き団体ツアーを選んだ」(54.3%)が最も多かった。また、「インターネットで探した」「知人の紹介」といった自らガイドを探した者は16.6%であった。

図表 18 「ガイドを選んだ経緯」の推移（平成26年度～令和2年度）



大台ヶ原登録ガイド制度の概要

1. 運営主体

大台ヶ原の利用に関する協議会

2. ガイド制度の目的

「大台ヶ原自然再生推進計画 2014」の長期目標である「ワイズユースの山」の実現を目指し、利用者に対してより質の高い自然体験の提供、地元への経済的効果の発現に寄与することを目的とする。

3. 対象範囲

登録ガイドとして、ガイドできる範囲は大台ヶ原

4. ガイドの定義

有料でガイド事業を行い、大台ヶ原の魅力や自然再生の取組を利用者に伝え、安全で質の高い自然体験の機会を提供することができる知識と技術を有し、かつ第1条の目的に賛同する者とする。

5. 登録制

登録制度で、登録要件を満たすことで登録が可能

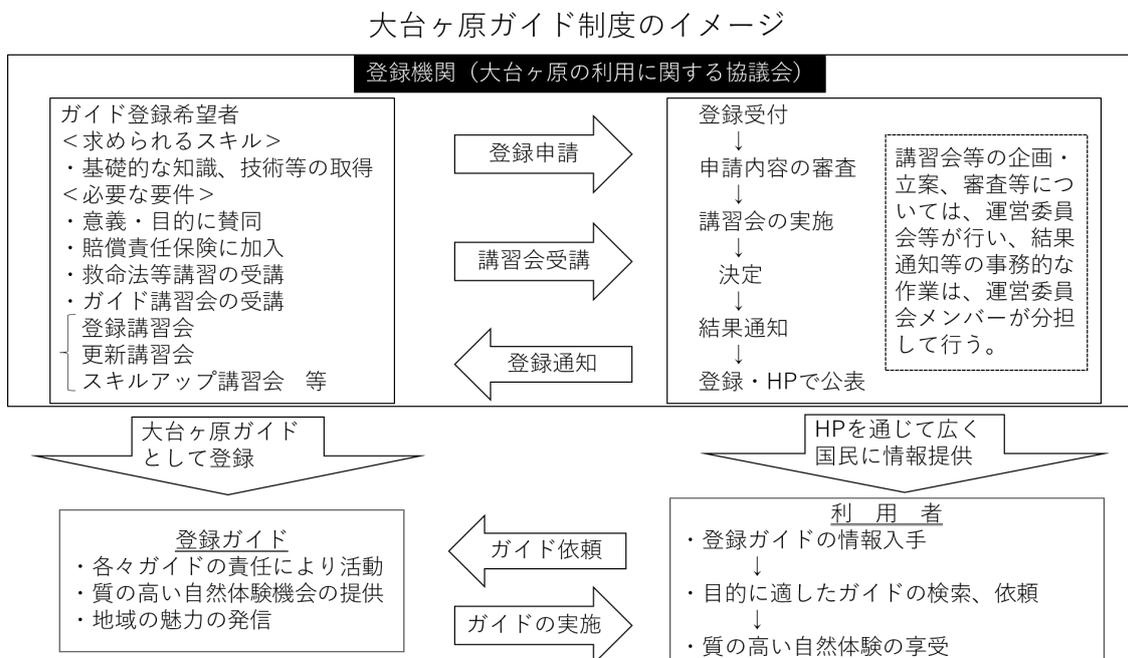
6. 登録要件

	項目	提出書類
①	「登録ガイド心得」及び「ガイド共通ルール」に同意すること。	「登録ガイド心得」「ガイド共通ルール」同意書
②	安全にガイドできる知識と技術を有していること	「自然ガイド等に関する資格認定証等の写し及び過去3年以内のガイド実績」又は大台ヶ原の利用に関する協議会の構成機関である国若しくは地方公共団体の長からの推薦状
③	日本赤十字の救急基礎講習、消防等が行っている普通救命講習又はそれに準じる救命に関する受講経験があること	過去3年以内の救命に関する受講経験を証明するものの写し
④	ガイド活動中に賠償責任保険に加入していること	保険証券等の写し
⑤	登録ガイドに関する情報を提供すること	登録ガイド情報
⑥	協議会が実施する登録講習会を受講していること	受講修了証の写し

7. 登録期間、登録料

3年毎に更新。登録料 8000 円/3 年。

8. 大台ヶ原ガイド制度のイメージ



9. 登録ガイド制度の検討の経緯

- 平成 17 年頃 : 登録ガイド制度の検討を開始した。
- 平成 27 年～ : 利用 WG と協議会の合同による検討を開始した。
- 平成 28 年～ : ガイド制度の実施要項等の策定をした。
- 平成 29 年 8 月 : 16 名登録
- 平成 29 年 10 月 : 運用開始
- 平成 30 年 2 月 : 7 名登録
- 平成 31 年 2 月 : 8 名登録
- 令和 2 年 1 月 : 3 名登録
- 令和 3 年 1 月 : 1 名登録（現在登録作業中）

※登録ガイド数 34 名（令和 3 年 2 月現在）

大台ヶ原登録ガイド制度に関する取組事例

区分	事項		実施主体	実施内容	実施年度				備考
	項目	詳細			H29	H30	R1	R2	
基本的な作業	広報	ホームページやSNS	上北山村	開設、運用	●	●	●	●	運用中 令和3年度からはガイドの同行を推奨する旨を記載予定
			環境省	ビジターセンターの Facebook ページを運営			●	●	令和元年度に開設 令和3年2月時点のフォロワー数 532 件
		チラシ、ポスター	環境省	一般利用者向け、旅行会社向けチラシの作成、配布	●	●	●	●	令和2年度から一般用・旅行会社用チラシ、西大台利用調整地区の英語版チラシ配布開始 令和2年度途中より西大台利用調整地区認定申請者への認定証送付時に登録ガイドのチラシを同封 令和3年度からは西大台のチラシ（西大台登山マップ等）でガイドの同行を推奨する旨を記載予定
		PR 動画	環境省	一般利用者向け	●	●	●	●	令和元年度から YouTube 配信開始 令和3年2月時点の再生数は、①「登録ガイドと一緒に歩こう」589 件、②「意外と簡単！登録ガイドの頼み方」482 件
		ガイド各自の HP、ブログなど	登録ガイド 上北山村 その他関係者	登録ガイド等による制度の紹介	●	●	●	●	登録ガイドや登録ガイド講習会講師、地元自治体などがブログまたは Facebook にて大台ヶ原登録ガイド制度を紹介
		その他	環境省	吉野熊野国立公園（大台ヶ原登録ガイド制度を含む）アクティビティコンテンツの発信資料を作成			●	●	令和元年度に、吉野熊野国立公園内のアクティビティコンテンツの収集業務を実施済。 吉野熊野国立公園分のコンテンツを含んだ「国立公園コンテンツ集」を令和2年度に作成、ホームページ等で公開中。 ※詳細は別紙のとおり（参考資料3） 令和3年度も作成予定。
	登録	事務、登録講習会	環境省 上北山村	登録に関する照会、申請受付講習会の開催	●	●	●	●	令和2年度は18人が登録講習を受講。（うち、登録更新が15人、新規登録が1人、任意受講が2人） 令和2年度にガイドテキストの改訂（情報更新）を予定

区分	事項		実施主体	実施内容	実施年度				備考
	項目	詳細			H29	H30	R1	R2	
展開作業	ガイドの活用	ガイドツアー	環境省 上北山村 近畿日本鉄道株式会社 奈良交通株式会社	ツアーの実施	●	●	●		年間3回実施しているが、令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響からツアーは中止 令和3年度はガイドウォーク（3回/年）で、「防鹿柵の内外を見せ」、環境修復を体験させるプログラムを試行予定
		登録ガイドによる取組	登録ガイド	HP などからの申込受付及びツアーの実施	●	●	●	●	
		その他	上北山村	大台ヶ原冬期利用に関する調査の実施		●	●	●	令和2年度は前年度に続いて、大台ヶ原の冬期利用を試行。 大台ヶ原登録ガイド、ツアー客を対象としたモニターツアーを4回程度実施中（2月上旬～下旬）。
	ガイド制度の効果検証	登録ガイドのガイド実績把握	環境省	4～11月（開山期間）の大台ヶ原でのガイド実績について聞き取りを行った。	●	●	●	●	回答者17人中、「ガイド実績あり」が7人、「ガイド実績なし」が10人 回答したガイドが令和2年度に案内したのは、計21回（組）で、計95人 ※詳細は別紙のとおり（参考資料2-1）
		登録ガイドへの聞き取り調査	環境省	令和2年度は登録ガイドの料金の開示について聞き取りを行った。		●	●	●	聞き取り項目は「設定しているガイド料金」「ガイド料金表示への考え」「表示金額の考え方」（メールによる意見募集）
	登録ガイドのスキルアップ	スキルアップ講習会	環境省 上北山村	実施せず		●	●		令和2年度は制度開始時のガイドが更新時期を迎えたため、スキルアップ講習会は実施せず、計2回の登録・更新講習会を実施 ※詳細は別紙のとおり（参考資料2-2）

構成機関における取組事例一覧表

No.	発表者	発表テーマ	配布資料
1	奈良県県土マネジメント部 吉野土木事務所 工務第二課 上田氏	冬期通行止めの解除及び今後の復旧工事について	なし
2	林野庁 近畿中国森林管理局 三重森林管理署 ※本日ご欠席のため、事務局にて説明	大台ヶ原・大杉谷における自然再生等の周知に関する取組	資料 4 - 2
3	大台町 産業課 福岡氏	令和 2 年度大杉谷登山道の利用状況等について	資料 4 - 3
4	上北山村 企画政策課 北岡氏	大台ヶ原の冬期利用等について	なし
5	環境省 吉野管理官事務所 関氏	大台ヶ原における適正利用の推進、自然再生の周知等に関する取組	資料 4 - 4
6	公益財団法人日本山岳会関西支部 自然保護委員会 ※本日ご欠席のため、事務局にて説明	令和 2 年度の取組み報告、令和 3 年度の活動予定	なし

大台ヶ原・大杉谷における自然再生等の周知に関する取組

大台ヶ原・大杉谷の森林再生応援団

大台ヶ原・大杉谷国有林における自然再生の取組を、作業体験を通して、広く一般の方に周知し理解を深める取組を実施した。

1. 実施日 令和2年10月2日（金）
2. 実施体制 主催者：三重森林管理署、近畿地方環境事務所
後援者：奈良県上北山村、三重県大台町
3. 内容 正木ヶ原周辺のトウヒやウラジロモミなどをシカの樹皮剥ぎ被害から樹木を守る防護ネット巻きや、森林の衰退を防止するため稚樹保護柵内のトウヒ稚樹周辺のササ刈りの作業体験を28名のボランティアに参加協力を得て実施した。また、昼食後の休憩時間を活用して、環境省から両機関がこれまで実施してきた森林再生の取組や、大台ヶ原・大杉谷周辺に住む人々と森林の関わりについての話も行った。



ネット巻きの様子



根元までネット巻き



大台ヶ原ビジターセンター前にて

令和2年度大杉谷登山道の利用状況等について

1. 利用状況

新型コロナウイルスの世界的な流行により、緊急事態宣言及び外出自粛要請が発令されたため今シーズン前半の登山者数は激減しました。緊急事態宣言解除後は、登山者数は徐々に戻り始め、月によっては前年を上回る月もありましたが、全体の登山者数としては、前年に比べ大幅に減少しました。

○開山期間：令和2年4月17日(金)～11月23日(祝・月)

○登山届数：915パーティ 2, 396人の提出（前年比58%）

※正式な入山者数は、現在集計中

2. 大杉谷登山歩道での主な取り組み状況

(1) 大杉谷登山歩道の維持管理

環境省と三重県から登山歩道の維持管理業務を受託し、大杉谷登山口から日出ヶ岳登山口までの登山歩道において、パトロールや軽微な補修、倒木の処理、点検等を行いました。

また、一般の参加者を募ったボランティア整備や大杉谷登山道の関係者による登山歩道の整備や自然保護活動を行いました。

(2) 安全登山の啓発

登山者に対して、登山計画書の提出や安全登山を呼び掛ける看板、ホームページやチラシ等による安全登山の啓発を積極的に行い事故の防止に努めました。

また、大杉谷登山センター（大杉谷自然の家）の前で、大台警察署大杉駐在所と連携し安全登山の啓発を行いました。

(3) 大杉谷入山協力金について

今年度から大杉谷入山協力金制度を本格実施し、令和2年4月17日（金）の開山日から閉山日（11月23日（祝・月））まで、大杉谷登山歩道の利用者を対象として入山協力金（1シーズン1千円）を集めました。

○大杉谷入山協力金実施結果

令和2年度 協力金額(4/17～11/23) 1, 585, 988円

3. 山岳遭難事故への対応状況

今年度、大杉谷登山道での山岳遭難事故が7件発生し、例年に比べて事故が多く起きました。このため、注意喚起のため看板設置や大杉谷登山センターのホームページでの情報発信、登山者への直接の声掛けなどを行いました。

山岳救助隊の出動としては、七ツ釜滝での死亡事故の際に1日、行方不明者捜索の際に6日間、計7日間出動しました。

○山岳遭難事故の内容

- | | |
|---------|---------------|
| 行方不明 | 1件（未発見） |
| 滑落 | 4件（死亡1件、重傷3件） |
| クマによる負傷 | 1件（軽傷） |
| 疲労による負傷 | 1件（軽傷） |



一般参加者による登山歩道のボランティア整備状況



登山者への安全登山の啓発状況

大台ヶ原における適正利用の推進、自然再生の周知等に関する取組

1. 大台ヶ原における適正利用の推進等に関する取組

大台ヶ原の快適で適正な利用を推進するため、以下の取組みを実施した。

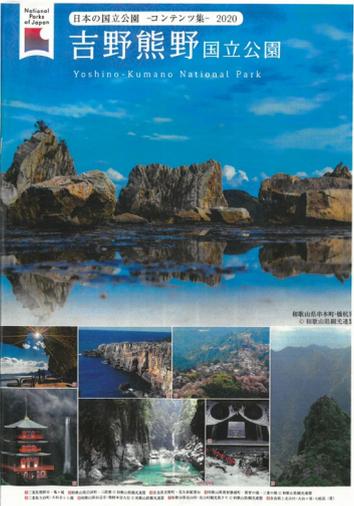
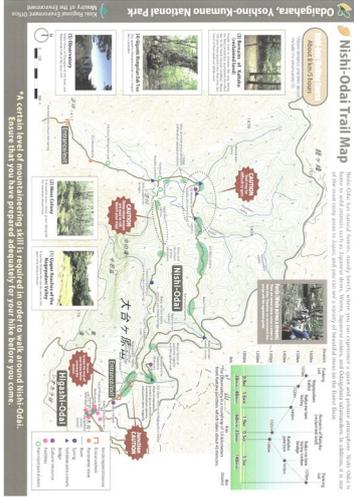
(1) 多様な利用への対応の取組みについて

1) 日本の国立公園 コンテンツ集 2020 への大台ヶ原の掲載

地域と連携して日本全国の国立公園や公園毎のアクティビティコンテンツを紹介する「国立公園コンテンツ集」の作成を実施し、今年度から初めて吉野熊野国立公園も同コンテンツ集へ掲載された。コンテンツ集では大台ヶ原登録ガイドや大台ヶ原を含む吉野熊野国立公園お勧めのモデルコースの紹介を行った。

2) 西大台利用調整地区チラシの英訳

訪日外国人旅行者等に対応するため、昨年度末に作成した西大台利用調整地区チラシ（英訳）を今年度に配布を実施。

	
<p>吉野熊野国立公園コンテンツ集</p>	<p>配布予定の西大台英訳チラシ</p>

(2) 施設の管理

1) 稚樹保護柵のササ刈り

東大台に設置された稚樹保護柵において、トウヒ等の稚樹の生育の支障となっているミヤコザサの刈り払いをパークボランティアと実施した。

2) 歩道の補修

東大台の正木峠木道階段と日出ヶ岳木道階段のペンキ塗りをパークボランティアと実施した。

3) その他

歩道の清掃等をパークボランティアと実施した。

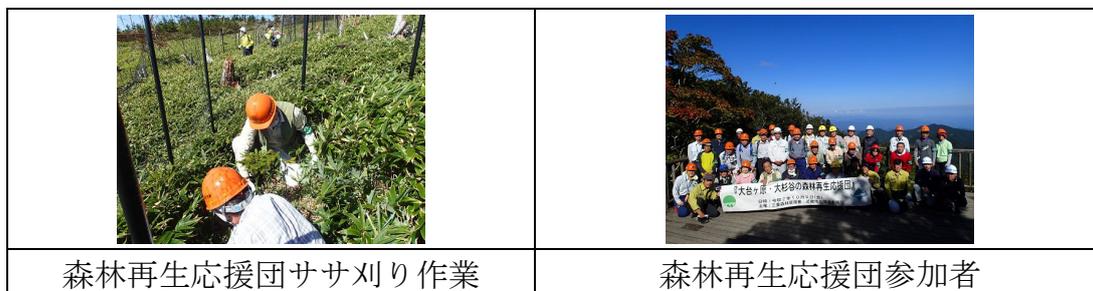


2. 大台ヶ原における自然再生等の周知に関する取組

大台ヶ原の自然や自然再生事業の取組みを深く、知ってもらうことを目的に、大台ヶ原・大杉谷の森林再生応援団を実施した。

実施日：令和2年10月2日(金)

実施体制：近畿地方環境事務所、三重森林管理署



大台ヶ原の利用に関する意識調査

入山日：令和2年 月 日

大台ヶ原では、大台ヶ原を訪れる方々に、安全に、より深く自然を楽しんでいただくことを目的とした「大台ヶ原登録ガイド制度」があります。また、将来にわたり自然環境を保持し、より質の高い自然体験の場を提供するため、西大台利用調整地区というエリアが設定されております。これらについて、ご意見等をお聞かせください。

【 I . 属性情報】

I-1 利用者情報など	性別：①男 ②女	年齢 ①10才未満 ②10代 ③20代 ④30代
	居住地(都道府県など):()	⑤40代 ⑥50代 ⑦60代 ⑧70才以上
	来訪目的：西大台利用調整地区に来られた主な来訪目的を、1つだけ教えてください。 ①登山・散策 ②写真撮影 ③生物の観察 ④風景鑑賞 ⑤その他 ()	
I-2 団体ツアー・個人の別	今回の来訪形態について、1つだけお答えください。 ①旅行会社主催のツアー ②登山や自然観察のガイドツアー ③個人・グループ(計 人) ④その他 ()	
I-3 行程	今回、どのような行程で大台ヶ原に来られましたか。1つだけお答えください。 ①日帰り ②宿泊を伴う行程(宿泊場所:)	
I-4 来訪回数	これまでに大台ヶ原に来た回数 ①初めて ②今回を含め () 回	うち西大台地区に来た回数 ①初めて ②今回を含め () 回

I-5 今回の西大台利用調整地区も含め、これまでに大台ヶ原でガイド付きの山歩きや登山をしたことがありますか。

- ① ある ② ない(理由を聞かせてください：例えば料金が高いから、一人で歩きたいからなど)

()

「① ある」を選んだ方のみ

I-5-1 「大台ヶ原登録ガイド」を利用しましたか。

- ① 利用した ② 利用していない ③ 登録ガイドであったのかわからない

I-5-2 ガイドを選ばれた経緯を以下からあてはまるものを選んでください。

- ①インターネットで探した ②知人の紹介 ③ガイド付き団体ツアーを選んだ
④選んだツアーにたまたまガイドが付いていた(または添乗員がガイドをした)
⑤その他(具体的に)

I-6 西大台利用調整地区の利用に関し、今回、何を期待して西大台利用調整地区に来られましたか。
具体的に記入してください(自由記述)。

例：原始的な自然、ブナ林、新緑、苔、紅葉、東大台との違い、利用調整地区制度等

()

期待どおりだったのかどうか、その理由を含めてお聞かせください。

()

【Ⅱ. 意識調査等】

■西大台利用調整地区の利用前に、ビジターセンターで受けたレクチャーについての意識をお聞きます。

Ⅱ-1 内容	レクチャーの時間の長さ・内容について、どのように思いましたか。 ①満足 ②普通 ③不満
Ⅱ-2 不満の理由等	上記のⅡ-1で「不満」と思われた方は、改善すべき点などを、具体的にお書きください。 ()

■西大台利用調整地区の利用についての意識をお聞きます。

Ⅱ-3	西大台利用調整地区をまた訪れたいと思いますか。 ①はい ②いいえ ③わからない
-----	--

Ⅱ-4	西大台利用調整地区以外のエリアでの山歩き・登山も含め、大台ヶ原でガイドを利用することについて、どのように思いますか。以下から1つだけ選んで下さい。 ① ガイドは要らない（利用しなくてよい）と思う ② <u>自然について基本的な解説</u> をしてくれる初心者向けのガイドであれば、利用したいと思う ③ <u>自然についてより専門的な解説</u> をしてくれる中・上級者向けのガイドであれば、利用したいと思う ④ <u>登山技術を指導</u> してくれる初心者向けの山岳ガイドであれば、利用したいと思う ⑤ <u>登山技術を指導</u> してくれる中・上級者向けの山岳ガイドであれば、利用したいと思う ⑥ その他（具体的に：)
-----	---

Ⅱ-5	その場合、ガイド料金を利用者一人当たり何円までなら支払ってもよいと思いますか。 ① 2,000円以内 ② 2,000～3,000円 ③ 3,000～4,000円 ④ 4,000～5,000円 ⑤ 5,000～6,000円 ⑥ 6,000～7,000円 ⑦ 7,000円以上
-----	--

■西大台利用調整地区全般についてのご意見・ご要望等があればお聞かせください。

--

ご協力ありがとうございました。当用紙は大台ヶ原ビジターセンターの回収箱に投函していただきますようお願いいたします。

令和2年度大台ヶ原登録ガイド 実績取りまとめ票の集計結果

1. 調査方法

- 大台ヶ原登録ガイド 34 名に E メールにて「ガイド実績取りまとめ票」を送付し、回収した。(回答依頼期間: 令和2年 11/17～12/14 で依頼。その後、未提出の方を対象に再度提出を 12/19 に依頼し、1/28 時点での結果とする)。
- ガイド実績は、「令和2年 4 月～(提出日)」の期間で、ガイドした実績を記入して頂いた。
- 大台ヶ原登録ガイド 34 名のうち、17 名から回答を得た。

2. 大台ヶ原登録ガイドの活動状況

(1)ガイド実績と回数

ガイド実績を提出した大台ヶ原登録ガイド 17 名のうち、「ガイド実績あり」が7名、「ガイド実績なし」が10名であった。「ガイド実績なし」と回答した方のうち2名は、大台ヶ原登録ガイドとしてではなく、自社で企画・催行したプログラムにおいて大台ヶ原でガイドをする機会があったと回答した。

「ガイド実績あり」と回答した大台ヶ原登録ガイド7名が案内した客は、以下の回数、人数である。

ガイド	ガイド回数	各回の客人数	備考
Aさん	2回	2人、1人	1人の客は2日間(東大台、西大台両方)にわたりガイドした
Bさん	3回	10人、8人、6人	
Cさん	7回	2人、3人、3人、8人、6人、1人、6人	
Dさん	1回	2人	他に3件ほど問い合わせがあったが日程が合わず催行なし
Eさん	1回	9人	
Fさん	2回	7人、5人	2回とも自社での企画
Gさん	5回	3人、1人、4人、4人、4人、	
合計	計 21 回(組)	計 95 人	

参考)前年度は、計 18 回(組)、計 136 人程度

(2)ガイドを利用する利用客の傾向

大台ヶ原登録ガイドが出動した計 21 回(21 組)の利用について、利用時期やコース、依頼した経緯を取りまとめた。

1) ガイド実施時期

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	計
0組	0組	1組	1組	5組	3組	6組	5組	21組

- ・10月のガイド利用者が最多であった(6組)が、6組中登録ガイド HP からの申込みは0組であった。また、個人からの依頼は1組にとどまり、他5組がツアー会社等を経由した依頼となった。
- ・10月の次に、8月(5組)、11月(5組)のガイド利用者が多く見られた。
- ・8月は5組中登録ガイド HP からの申込みは1組のみであった。
- ・11月は5組中登録ガイド HP からの申込みは2組のみであった。

2) ガイド実施曜日

月	火	水	木	金	土	日	計
2組※	2組	2組	2組	3組	5組	5組	21組

ただし、2日間にわたるガイドは初日の曜日でカウントした。

- ・平日 10 組、休日(土日祝)11 組の実施となった。
- ・※月曜日2組のうち、1組は祝日に含まれる。

3) コース

西大台	東大台	両方	計
11組	8組	2組	21組

- ・利用調整地区である西大台と、両方でのガイド利用者 13 組のうち、大台ヶ原登録ガイド HP からの依頼は4件であった。(参考)前年は1件
- ・東大台の利用(8組)のうち、具体的なルートとして東大台中道からマブシ嶺へのルートが1件報告された。

ガイドを依頼された経緯

個人から(15組)	ツアー会社等から(6組)
① 大台ヶ原登録ガイド HP を見て 4組	① 大台ヶ原登録ガイド HP を見て 0組
② それ以外(リピーター、紹介) 11組	② それ以外(リピーター、紹介) 6組
③ 不明 0組	③ 不明 0組

- ・ガイドを依頼された経緯について、「個人からの依頼」が「ツアー会社等からの依頼」の2倍以上となった。(参考)前年は、個人から(11組)、ツアー会社等から(7組)
- ・「個人からの依頼」での実施人数は、最小で1名、最大で7名であった。
- ・大台ヶ原登録ガイド HP を見て依頼された件数について、「個人からの依頼」では4組、「ツアー会社等からの依頼」では0組となった。
- ・登録ガイド HP からの依頼よりも、個人的なつながりによる依頼が多いことが読み取れる。

5) 登録ガイド制度に関する意見【自由記述】

※電話、メールにて事務局に寄せられた意見を含む

<登録ガイドメリット、ガイド実施範囲に関するご意見>

- ・急な、依頼があった時に入場できるかどうかわからない場合があると思います。登録ガイドは、いつでも入場できるようにして頂けたらと思いますが、、下見も行きたい時があります。そういう場合も自由に入場できるスタイルにはならないのでしょうか？(Dさん)
- ・登録ガイドであっても西大台にはいる場合毎回レクチャーが必要 年度1回受講すれば！に次年度は改善してほしい！(Eさん) ※現在の制度上は年度1回受講となっている。
- ・大台ヶ原登録ガイドの資格を持っていても、西大台に入る際のレクチャーの受講を求められますが、これはおかしい話だと思います。資格のメリットを感じられる様な制度になるよう、改善を求めます。(Hさん)
- ・登録ガイドであるメリットが少なすぎる。例えば、西大台への入山手数料は一般の人と同じ額がかかるし、ビジターセンターでの講義も同様に受ける必要がある。また、立入可能なエリアも、一般の人と同等に東大台/西大台の周回ルートだけである。本来、登録ガイドは環境負荷の低減も考慮しながら、お客様を安全に案内する技能を有するという位置づけだと思うが、例えば、かつて立ち入ることができた巴岳～ナゴヤ岳～三津河落山縦走ルートや、滝見尾根の2ルートだけでも、登録ガイドの同行があれば立入を許可するなど、登録ガイドならではの具体的なメリットがほしい。登録ガイドでないガイドがこっそり、同領域に入山している噂も耳にするだけに、登録ガイドであるが故に損をするような状況にしてはいけないと思う。自然保護の大切さは、そこに人を連れて行って共感してもらい、理解してもらうのが一番であり、いたずらに立入禁止にするのは無意味である。(Fさん)
- ・大台ヶ原登録ガイドであることで、仕事が増えるようなこともなく、ガイドメリットが少ない。上北山村在住の特定のガイドに仕事が集中し、村外のガイドにはそのガイドからの紹介以外で依

頼がほとんど来ないのにも関わらず、ガイドの登録料が 8,000 円では負担が大きく、赤字になる。事務局が申し込みの一本化をして、割り振るべきではないか。更新の意思がなくなった。(I さん)

<ガイドの登録更新に関するご意見>

- 登録ガイドの更新時に救急救命の受講が義務づけられていますが、日本山岳ガイド協会認定ガイドは、免除等の別措置を考慮してほしい。もしくは登録時のみの要件としていただきたい。(J さん)
- スケジュール調整が必要となる講習会は最低もう三ヶ月早く日程を決めて頂きたいです。(C さん)

<ガイド利用・申込方法>

- 今年度、大台ヶ原は兩名ともいろいろなコースへガイドしましたが、すべて教室の受講生と顧客でした。大台ヶ原登録ガイドのホームページを見て照会がありましたが、すべて知人のガイドへ依頼しました。(ツアー会社及び個人から) 計6件ほど(J さん)
- 今年の4月以降、4件の大台ヶ原のガイドのご依頼がありましたが、全て日程が迫っており、別の仕事が入っていたため、お断りせざるをえませんでした。現実的にお客様に一ヶ月以上前に依頼していただくのは難しいだろうと考えています。(K さん)

<その他>

- コロナの影響をまともに受けガイド業務も激減した！次年度には独自のガイドラインを設定するなどして何らかの対策手立てを構築していただきたい！(E さん)
- 冬の大台ヶ原の、登録ガイド同行を条件とした限定公開は、ぜひ継続実施してほしい。ガイドが所有するクルマが4WDであること、スタッドレスタイヤ装着かつタイヤチェーン搭載を条件に、ガイド自身を送迎できるようにすれば、村役場スタッフの負担が軽減できる。(F さん)

吉野熊野国立公園

Yoshino-Kumano National Park



和歌山県串本町・橋杭岩
© 和歌山県観光連盟



1 三重県熊野市・鬼ヶ城 2 和歌山県白浜町・三段壁 © 和歌山県観光連盟 3 奈良県吉野町・花矢倉展望台 4 和歌山県那智勝浦町・那智の滝・三重の塔 © 和歌山県観光連盟
5 三重県大台町・大杉谷シシ淵 6 和歌山県田辺市・熊野本宮大社 © 和歌山県観光連盟 7 和歌山県北山村・北山村観光筏下り © 和歌山県観光連盟 8 奈良県上北山村・大台ヶ原・大蛇窟(夏)

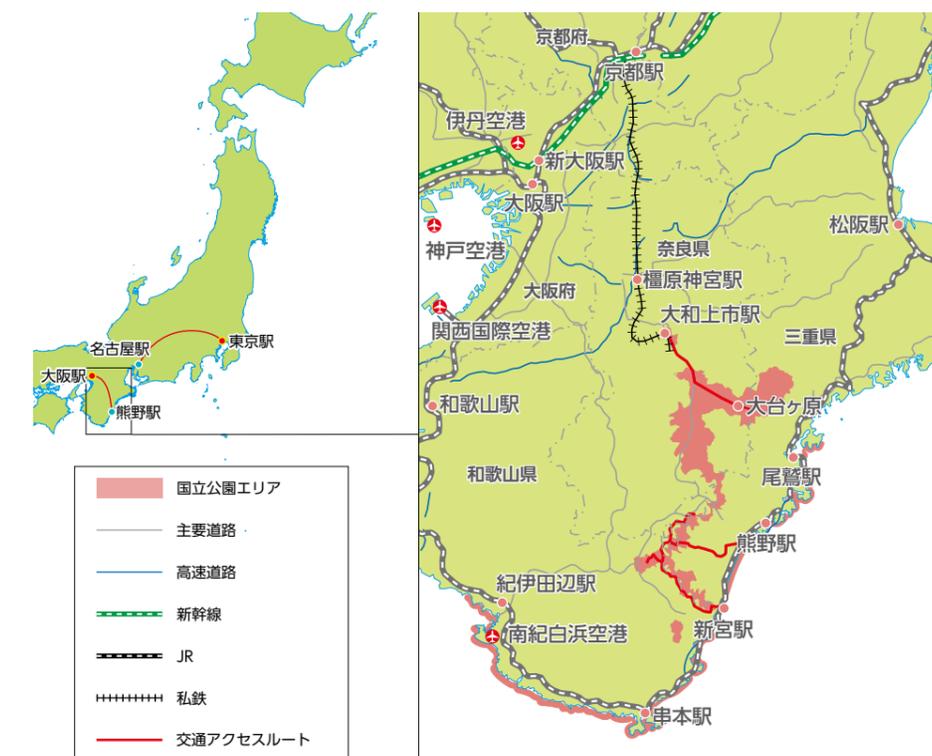
参考資料 3

幽玄の山々、深い渓谷、黒潮流れる南海 ～紀伊半島の多様な自然と悠久の歴史・文化に会う～

吉野熊野国立公園は、山岳・渓谷・海岸からなる変化に富んだ国立公園で、近畿の屋根とも称される紀伊半島の中央部に南北に走る大峰山脈とその東側に位置する大台ヶ原・大杉谷、また、これらの山岳を源とし、激しく侵蝕しながら熊野灘に注ぐ熊野川、北山川の中・下流域、尾鷲から潮岬にかけての本州最南の熊野灘にのぞむ海岸線、熊野信仰の古い歴史によって守られてきた那智山等から成っています。

また、国立公園の一部地域が「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界文化遺産に、北部の一部地域が生態系の保全と持続可能な利活用の調和を目的としたユネスコエコパークに登録されており、さらに、和歌山県と奈良県の南紀熊野地域が日本ジオパークに認定されています。

交通アクセス



東京駅	東海道・山陽 新幹線 約100分	京都駅	近鉄 特急 約50分	橿原神宮駅	近鉄 急行 約50分	大和上市駅	奈良交通 バス 約105分	大台ヶ原
新大阪駅			JR特急 約260分					新宮駅

アクセスルートは一例です。各区間の所要時間は目安です。詳しくは各交通機関の窓口・ホームページなどでご確認ください。

お問い合わせ窓口

各事業者に直接お問い合わせください。

吉野熊野国立公園～おすすめコンテンツ～

コンテンツ 01 周回コースは約4～6km、標高差約100m。スタート地点のふるさと自然公園センターでは、ひき岩群に関する展示と、年間数回はひき岩での観察会を行っています。また春は約700本の桜が咲き誇る名所でもあります。
奇岩が連なる景勝地 ひき岩群のケスタ地形ウォーキング



FIT **GROUP**

ヒキガエルのように見える岩山があり、植物観察、森林浴、展望台からの絶景が楽しめます。ハイキングなどを通して、自然と人間との調和のあり方、自然環境の保全に関して考える機会を作ってみませんか。また、ふるさと自然公園センターでは、ひき岩群のほかにも、田辺市の豊かな自然を紹介しています。

時期 通年
所要 60～90分
料金 要問合せ
問合せ 田辺市役所・環境課
電話 0739-26-9927
E-mail hikiiwa@mb.aikis.or.jp
URL <http://www.city.tanabe.lg.jp/kankyo/hikiwa/center-nittei.html>

コンテンツ 02 世界遺産登録の吉野山。麓から山頂付近にかけ約3万本の桜で覆われ、周辺に多くの社寺や史跡が点在。
日本一の桜名所・圧倒的なスケールを誇る吉野山の桜風景を満喫



FIT **GROUP**

吉野山は地域全体が世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の中核資産として登録されています。麓から山頂付近にかけて約3万本の桜で覆われ、周辺には多くの社寺や史跡が点在します。

時期 3月下旬～4月中旬
所要 約240～300分
料金 要問合せ
問合せ 一般社団法人 吉野ビジターズビューロー
電話 0746-34-2522
E-mail info@yoshino-kankou.jp
URL <https://yoshino-kankou.jp/>

コンテンツ 03 温帯と亜熱帯の生き物が入り混じって暮らす黒潮のサンゴの海を、水族館と海中体験を通じて楽しく学ぼう！
本州最南の国立公園に広がる美しき海の楽園「串本海中公園」



FIT **GROUP**

ラムサール条約に登録されている日本で最初の海中公園「串本海中公園」。黒潮の影響を受けた、温帯と亜熱帯の生き物が入り混じって暮らす美しいサンゴの海中景観が特徴です。公園内のセンターでは、水族館で海や生き物のことを学び、海中体験施設で実際に海の中を観察することができます。

時期 通年
所要 110分
料金 大人(高学生以上)1,800円・小人(6歳以上)800円
問合せ 串本海中公園センター
電話 0735-62-1122
E-mail info@kushimoto.co.jp
URL <http://www.kushimoto.co.jp/>

コンテンツ 04 熊野三山の一つ熊野那智大社、那智山青岸渡寺、那智の滝があります。世界遺産に登録されています。
語り部と歩く熊野古道ウォーク(大門坂～熊野那智大社・那智の滝コース)



FIT **GROUP**

那智山青岸渡寺と熊野三山の一つ熊野那智大社は、熊野信仰の聖地として崇められてきました。熊野信仰は滝や川、巨岩などに神が宿るとされる自然崇拝が起源となり、古の時代より多くの人々が詣でてきました。石畳が美しい「大門坂」を上り、社寺、那智の滝へのコース。苔むした石段と杉木立は熊野古道の雰囲気も良く、歩きやすいコースです。

時期 通年
所要 150分
料金 1グループあたり4,000～8,000円
問合せ 那智勝浦町観光案内所
電話 0735-52-5311
E-mail info@nachikan.jp
URL <https://www.nachikan.jp/>

コンテンツ 05 伊勢から熊野につながるみち「熊野古道伊勢路」。美しい森の中につづく石畳を、ガイド貸切りで歩く現地ツアー！
いにしへの歩き旅を追体験する、世界遺産「熊野古道伊勢路・馬越峠エコツアール」



FIT **GROUP**

世界遺産・熊野古道伊勢路は、伊勢神宮をお参りした旅人が熊野を目指して歩いた巡礼の道です。森林の中につづく石畳をガイドと歩く「馬越峠エコツアール」や「ひとり旅応援プラン」など、貸切りでご参加いただけます。人はなぜ熊野を目指すのか、何を想いながら歩いたのか、今こそあなた自身で確かめてください。

時期 通年
所要 280分
料金 大人2名参加の場合@7,500円・3名参加@6,500円
問合せ くまの体験企画
電話 090-7865-0771
URL <http://kumanokodo.info/>

コンテンツ 06 毎日1グループ限定の貸切ツアーだから安心して楽しむことができます。一日で複数のアクティビティを実施することも可能。
吉野熊野国立公園 自分旅サポートシステム



FIT **GROUP**

三重県の南、熊野灘の広がる紀北町を中心に、海遊びのシーカヤックやシュノーケリング、清流の銚子川での川遊びのリバートレッキング、世界遺産の熊野古道ハイキングやサイクリングなどのプログラムの実施。小さなお子様連れのファミリーや、サークルや会社の研修プログラムまで幅広く対応いたします。

時期 通年
所要 360分
料金 大人13,000円～
問合せ 小山ハウス
電話 080-4120-0480
E-mail info@dohmo.jp
URL <http://www.oyamahouse.dohmo.jp/>

吉野熊野国立公園～おすすめコンテンツ～

コンテンツ
07

名勝「三段壁」の地下約36mに広がる海食洞窟まで、エレベーターで下降。かつては熊野水軍が舟を隠したという伝説の洞窟でもあります。

ダイナミックな景観と千古の神秘・歴史ロマンに出会える三段壁



FIT GROUP

長さ約2km、高さ約60mに及び柱状節理の大岩壁。間近に迫る大迫力の波しがきや約1600万年前の地層が荒波に削られた模様などの見どころスポットがあります。

時期	通年
所要	15分
料金	大人(中学生以上)1,300円・小人(6歳以上)650円
問合せ	三段壁洞窟
電話	0739-42-4495
E-mail	sandan@sandanbeki.com
URL	http://sandanbeki.com/

コンテンツ
08

コケ群生地、開拓跡などをめぐる約8kmのブナの大原生林を歩きます。珍しい植物も豊富です。

立入人数制限エリア 西大台地区の神秘的な原生林ウォーク



FIT GROUP

一日当たりの入場人数を抑制することにより、施設整備を最小限とし、広大なブナの大原生林の中を野鳥のさえずり、滑らかなせせらぎの音を聞きながら苔むした植生景観、神秘的な空間をお楽しみいただけます。

時期	4月下旬～11月下旬(大台ヶ原開山期間)
所要	300分
料金	大人1,000円・小人500円
問合せ	上北山村役場企画政策課
電話	07468-2-0001
E-mail	kanko@vill.kamikitayama.lg.jp
URL	http://vill.kamikitayama.nara.jp/

コンテンツ
09

大台ヶ原にしかない優れた自然や地域に息づく歴史など、ガイドを通じて質の高い自然体験を提供。山歩きを安全にお楽しみいただけるように、お客様の体力にあったおすすめコースもご提案します。

大台ヶ原登録ガイド制度



FIT GROUP

山岳ガイドと一緒に歩いていただくことで、より安全・安心に、より深く大台ヶ原を楽しんでいただけるプログラムです。

時期	4月下旬～11月下旬(大台ヶ原開山期間)
所要	200～240分
料金	要問合せ
問合せ	上北山村観光協会
電話	07468-2-0001
E-mail	kanko@vill.kamikitayama.lg.jp
URL	http://vill.kamikitayama.nara.jp/guide/

コンテンツ
10

自然を感じるシーカヤックに乗って、国の天然記念物で上陸禁止の神島などを周るガイドツアー!

シーカヤックを使って美しい自然や海を有する田辺湾の魅力を満喫



FIT GROUP

初めての方でも安心して乗れる安定したレクリエーションカヤックで、自然が豊かな田辺湾の島である、上陸禁止の「神島(かしま)」をガイドと一緒に周り、自然界を全身で感じていただけるツアーです!

時期	通年
所要	180分
料金	大人(中学生以上)6,300円・小人(6歳以上)1,800円～
問合せ	EARTH MATE(アースメイト)
電話	090-3990-6226
E-mail	info@earthmate.jp
URL	earthmate.jp

コンテンツ
11

筏下りは、まさに自然のジェットコースター! 600年の歴史が語る、激流の中で生き抜いてきた筏師の凄みを体験。

筏に乗っての急流下りで自然の中を大冒険「北山川 観光筏下り」



GROUP

北山村は日本で唯一の「飛び地」となっている秘境の村。ここで体験できる筏下りはもともと、切り出した木材を筏に組み、下流の新宮市まで運搬する手段でした。長年伝統で受け継がれてきた技術を駆使し、関西屈指の激流・北山川を筏で下る、日本唯一ここでしかできない壮大で感動的なアクティビティです。

時期	5～9月	所要	120分(全行程)
料金	大人(中学生以上)6,600円・小人(10歳以上)3,300円(各税込み)		
問合せ	北山村観光センター		
電話	0735-49-2324		
E-mail	ikada@kitayamamura.net		
URL	https://www.vill.kitayama.wakayama.jp/		

時期 通年 泊数 3泊4日

ぐるっと紀伊半島周遊 吉野熊野国立公園の魅力満喫する旅

ポイント

- ・紀伊半島の美しき山・川・海を訪ね、これらの自然の中で生まれた信仰や文化・歴史を体感。
- ・その土地を知りつくしたガイドによる体験ツアーを通じて、知的探究心も満たされます。



海中に約850mの列を成して大小40余りの岩柱がそそり立つ景勝地。吉野熊野国立公園内にあり、国の名勝・天然記念物。

	<p>7:33a.m. 新大阪 144min 紀伊田辺</p> <p>9:57a.m. 紀伊田辺 15min 〇 ひき岩群のケスタ地形</p> <p>コンテンツ 01 奇岩が連なる景勝地 ひき岩群のケスタ地形ウォーキング(60~180min) 〈ふるさと自然公園センターでは、ひき岩群に関する展示や、ひき岩周辺での観察会を年間数回行っています。また、春は桜が咲き誇る名所です。〉 25min</p> <p>11:35a.m. 田辺市内・和歌山県おさかな村など 〈新鮮な海の幸が揃うレストランが今春オープン。〉 1min</p> <p>1日目 EARTH MATE(アースメイト)(昼食)(45~50min)</p> <p>1:00p.m. EARTH MATE(アースメイト) コンテンツ 10 シーカヤックを使って美しい自然や海を有する田辺湾の魅力満喫(180min) 〈手つかずの自然が残る国の天然記念物「神島」など、素晴らしい景色を海上から楽しむガイドツアー。〉</p> <p>4:30p.m. 15min</p> <p>4:45p.m. 南紀白浜温泉 〈有馬、道後に並び温泉として非常に歴史が古く、日本三古湯のひとつで寛ぎのひとつとき。〉</p> <p>南紀白浜温泉【宿泊】 〈有馬、道後に並び温泉として非常に歴史が古い日本三古湯に数えられる温泉地で寛ぎの滞在。沖合に浮かぶ円月島に沈む夕景は必見。〉</p>				
	<p>9:00a.m. 南紀白浜温泉 5min 9:05a.m. 〇 三段壁</p> <p>コンテンツ 07 ダイナミックな景観と千古の神秘・歴史ロマンに出会える三段壁(30min) 〈名勝「三段壁」の地下36mに広がる海蝕洞窟まで、エレベーターで下降。かつては熊野水軍が船を隠したという伝説の洞窟であり、休息した番所小屋も再現。洞内には、日本一大きい牟婁大辯才天をお祀りしています。〉</p> <p>9:35a.m. 60min 10:35a.m. 串本海中公園</p> <p>コンテンツ 03 本州最南の国立公園に広がる美しき海の楽園「串本海中公園」(120~270min※昼食含む) 〈本州最南の国立公園に広がる美しき海の楽園・串本町付近流れる暖かな黒潮が育むサンゴ大群落やカラフルな魚たちを間近に観察。〉</p> <p>3:00p.m. 15min 3:15p.m. 〇 橋杭岩 休憩(20min)</p> <p>3:35p.m. 35min 4:10p.m. 南紀勝浦温泉【宿泊】 〈熊野那智大社や那智山青岸渡寺、日本一の落差を誇る「那智の滝」がある那智山の麓の海沿いに湧く温泉地。南紀熊野ジオパークのジオサイトの一つでもあり、温泉に浸かりながら、悠久の大地の恵みを全身で味わってみては、100以上の源泉と豊富な湧出量を誇り、旅館・ホテルには、太平洋を望む洞窟の露天風呂や、静かな湾内に面した露天風呂などの名湯温泉も。〉</p>				
	<p>8:10a.m. 南紀勝浦温泉 20min 8:30a.m. 〇 那智大社</p> <p>コンテンツ 04 語り部と歩く熊野古道ウォーク(大門坂~熊野那智大社・那智の滝コース)(120min※大門坂を歩かない場合は70min) 〈石畳が美しい熊野古道大門坂から熊野那智大社・那智の滝を巡るウォーク。吉野熊野国立公園・那智の魅力凝縮し、約2時間、約2.5kmのコースのため古道歩きが初めての方にもおすすめです。〉</p> <p>10:30a.m. 85min 北山村観光センター</p> <p>3日目 コンテンツ 11 筏に乗っての急流下りで自然の中を大冒険「北山川 観光筏下り」(120min:うち乗船時間70min) 〈北山川の急流を、長年伝統で受け継がれてきた技術を駆使し、筏で下る壮大で感動的なアクティビティ。〉</p> <p>3:20p.m. 50min 4:10p.m. 熊野本宮温泉郷</p> <p>熊野本宮温泉郷【宿泊】 〈1800年以上前に発見されたという「湯の峰温泉」をはじめ、「川湯温泉」「渡瀬温泉」と3つの温泉が湧くこの地域は、世界遺産・熊野本宮大社のお膝元、山と川に囲まれた大自然に点在する歴史ある名湯。〉</p>				
	<p>8:40a.m. 熊野本宮温泉郷 5~10min 熊野本宮大社</p> <p>8:50a.m. 熊野本宮大社(40~50min) 〈全国の「熊野神社」の総本宮にあたる熊野三山。古式ゆかしい荘厳な雰囲気漂わせる聖地巡礼。近隣には世界遺産・熊野三山、高野山、参詣道といったテーマ展示を常設している「和歌山県世界遺産センター」もあり。〉</p> <p>9:30a.m. 75min</p> <p>10:45a.m. 〇 鬼ヶ城(40~50min) 〈「紀伊山地の霊場と参詣道」の一部として世界遺産登録された海岸景勝地。熊野灘の荒波に削られた大小の海蝕洞が約1.2km続く迫力満点の自然が造り上げた彫刻美。〉</p> <p>11:30a.m. 20min 道の駅海山(紀北町)</p>				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>パターンA</th> <th>パターンB</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> <p>11:50a.m. 道の駅海山</p> <p>コンテンツ 05 いにしへの歩き旅を体験する、世界遺産「熊野古道伊勢路・馬越峠エコツアール」(300~360min※昼食時間含む)</p> <p>〈初めて熊野古道を歩く人にぴったりの個人向け貸切りエコツアール。熊野古道の中でも馬越峠は最も美しい石畳の続く道で、その土地を知り尽くした個性的で親切的なガイドとともに歩くことで、単に心が癒されるだけでなく、自然・歴史・文化を学び知的な探究心も満たされます。〉</p> </td> <td> <p>11:50a.m. 紀北町・尾鷲市周辺</p> <p>コンテンツ 06 吉野熊野国立公園自分旅サポートシステム(時間は自由に設定可)</p> <p>〈三重県の南、美しい熊野灘の広がる紀北町や尾鷲市周辺で、海遊びのシーカヤックやシュノーケル、清流の銚子川での川遊びのリバートレッキング&シュノーケル、世界遺産の熊野古道馬越峠や周辺でのハイキングやマウンテンバイクなどの外遊びプログラムを実施！また、各種アウトドア・スポーツを東紀州地域で、楽しめる方への宿泊やエリア案内をサポート。〉</p> </td> </tr> </tbody> </table>	パターンA	パターンB	<p>11:50a.m. 道の駅海山</p> <p>コンテンツ 05 いにしへの歩き旅を体験する、世界遺産「熊野古道伊勢路・馬越峠エコツアール」(300~360min※昼食時間含む)</p> <p>〈初めて熊野古道を歩く人にぴったりの個人向け貸切りエコツアール。熊野古道の中でも馬越峠は最も美しい石畳の続く道で、その土地を知り尽くした個性的で親切的なガイドとともに歩くことで、単に心が癒されるだけでなく、自然・歴史・文化を学び知的な探究心も満たされます。〉</p>	<p>11:50a.m. 紀北町・尾鷲市周辺</p> <p>コンテンツ 06 吉野熊野国立公園自分旅サポートシステム(時間は自由に設定可)</p> <p>〈三重県の南、美しい熊野灘の広がる紀北町や尾鷲市周辺で、海遊びのシーカヤックやシュノーケル、清流の銚子川での川遊びのリバートレッキング&シュノーケル、世界遺産の熊野古道馬越峠や周辺でのハイキングやマウンテンバイクなどの外遊びプログラムを実施！また、各種アウトドア・スポーツを東紀州地域で、楽しめる方への宿泊やエリア案内をサポート。〉</p>
パターンA	パターンB				
<p>11:50a.m. 道の駅海山</p> <p>コンテンツ 05 いにしへの歩き旅を体験する、世界遺産「熊野古道伊勢路・馬越峠エコツアール」(300~360min※昼食時間含む)</p> <p>〈初めて熊野古道を歩く人にぴったりの個人向け貸切りエコツアール。熊野古道の中でも馬越峠は最も美しい石畳の続く道で、その土地を知り尽くした個性的で親切的なガイドとともに歩くことで、単に心が癒されるだけでなく、自然・歴史・文化を学び知的な探究心も満たされます。〉</p>	<p>11:50a.m. 紀北町・尾鷲市周辺</p> <p>コンテンツ 06 吉野熊野国立公園自分旅サポートシステム(時間は自由に設定可)</p> <p>〈三重県の南、美しい熊野灘の広がる紀北町や尾鷲市周辺で、海遊びのシーカヤックやシュノーケル、清流の銚子川での川遊びのリバートレッキング&シュノーケル、世界遺産の熊野古道馬越峠や周辺でのハイキングやマウンテンバイクなどの外遊びプログラムを実施！また、各種アウトドア・スポーツを東紀州地域で、楽しめる方への宿泊やエリア案内をサポート。〉</p>				
	<p>4:20p.m. 紀北町・尾鷲市周辺 70min 5:30p.m. 松阪駅</p> <p>6:03p.m. 松阪駅 (近鉄特急) 101min 7:44p.m. 大阪難波 or</p> <p>6:08p.m. 松阪駅 (近鉄特急) 71min 7:19p.m. 名古屋</p>				

